



施設野菜の規模拡大のため、障害者の就労者数を増やし、作業の増加や高度化に対応できる作業アプリの開発導入による分業体制の整備や、高付加価値化による障害者の工賃を向上を図る。

基本情報

- 所在地：茨城県水戸市
- 団体名：有限会社 照沼農園
- 選定表彰：優良農福連携賞（2021年茨城県共同受発注センター）、ノウフク・アワード2022フレッシュ賞
- 主力商品：水稲（20ha）、アスパラガス、水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜、小松菜
- 取得認証等：－



取組の概要

- 水田20haで水稲栽培、農業ハウス3棟でアスパラガス、農業ハウス8棟で水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜、小松菜を栽培。
- 福祉事業所（就労継続支援B型）と連携し利用者にベビーリーフの計量パック詰め作業、リーフレタス等の袋詰め作業、水耕パネルの清掃、水耕野菜の定植作業に携わる。
- 1週間に障害者一人当たり1日6時間、週4日の24時間、作業を依頼。
- 農福連携の野菜は地元の飲食店、スーパー、直売所で販売。



野菜計量と袋詰め



試野菜のパック詰め作業



夏場の高温時の作業改善
ハウス内の作業を暑さ対策で外のテントで

体制図

有限会社照沼農園

施設外就労

障害福祉サービス事業所 たけのこ

社会福祉法人 清香会 育心園

取組の成果

- 支払い工賃が600円（時間）に向上し、茨城県の最低賃金300円（時間）の2倍となった。
- 作業方法やパッケージングを工夫し、作業時間が取組始めた当初の3分の1になった。
- 作業アプリを開発したことでパック詰めグラム数が〇×とモニターで表記されるため計量ミスがなくなった。

所在地 ▶ 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町2724-1

連絡先 ▶ TEL:029-248-6288 E-mail:mailto:g23youhei@gmail.com

【取組のプロセス】

平成16年

営農を開始

令和元年

障害者の農業体験会を実施

12名の施設外就労を受け入れ

農山漁村振興交付金（農福連携対策）事業に採択

連携する福祉事業所が2団体になり16名の受け入れ

令和3年

今後の展望

きっかけ

人手不足によりパート雇用を確保できない状況の際に、茨城県共同受発注センターからの紹介で障害者の体験会を開催。

取組の工夫

- 野菜パック詰め作業では、作業方法及びパッケージの変更等、障害者が作業をしやすい方法を考案。
- 地元IT企業と連携し、作業マニュアル、軽量を明確にできるアプリを開発したり、パック作業部屋にエアコンを設置し暑さ対策を実施するなど、作業環境の整備を図る。



計量作業の説明

作業アプリの開発導入により作業効率の向上

- 地元のIT会社と連携し作業の見える化をするためのアプリの開発を行い導入。
- パック詰め作業時の計量のミスをなくするため、作業数量をデータ化し計量器に○×で表記されるようなシステムとして、作業効率の向上を図った。



作業方法を工夫した野菜パック詰め

農山漁村振興交付金（農福連携対策）を活用

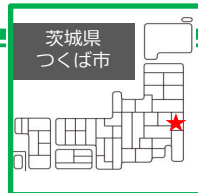
- 令和3年度農山漁村振興交付金（農福連携対策）事業を活用し、作業マニュアルの作成や先進地視察研修を実施し農福連携の強化を図る。
- 作業効率の向上により工賃が600円（時間）まで向上した。

GLOBALG.A.PやノウフクJASの取得を目指す

- 障害者が働きやすい分業体制の整備や作業マニュアルの構築を進める。
- 生産物の高付加価値化による障害者の工賃を向上を図るため、GLOBALG.A.PやノウフクJASの取得を目指す。



開発してアプリ 褒め褒めシステム



就労継続支援B型事業所として3箇所の農場を経営し、有機野菜の生産・体験農場、稲作・竹細工、平飼い自然養鶏など、幅広い取組を実施し、農業のフィールドを生かして障害者の働きがい深めている。

基本情報

- 所在地：茨城県つくば市
- 団体名：NPO法人ユアフィールドつくば
- 選定表彰：茨城県ドリームプランプレゼンテーション最優秀賞、人間力大賞グランプリ農林水産大臣賞、T Y O P（世界の傑出した若者10人）、ノウフク・アワード2023優秀賞
- 主力商品：季節の野菜セットの販売
- 取得認証等：認定農業者



春の野菜セット



野菜栽培に取り組むスタッフ

取組の概要

- 地域の約15haの荒廃農地を活用し、毎日約100名の障害者が、水稻（5.5ha）、野菜（8ha）の栽培、養鶏（1,300羽、0.7ha）などに従事。
- 農福連携技術支援者研修の研修農場としての受け入れや、企業への研修の受け入れ等を積極的に実施し、農福連携の取組を発信。
- 見学会、イベントの開催、体験農園（0.8ha）の設置等、近隣住民と交流できる企画を多数実施。



田んぼ



イベントの様子



平飼い養鶏

体制図

NPO法人
ユアフィールドつくば

ごきげんファーム
（就労継続支援B型
3事業所）

ひだまりベース
（グループホーム）

ブルーフロッグ（放課
後等デイサービス）

ハイク（訪問看護ス
テーション）

取組の成果

- 道具や作業行程を工夫し、様々な障害のある利用者が作業しやすい環境づくりに取り組むことで、障害のある利用者も主体的に関わることができ、就職につながる利用者も多い。
- 茨城県の平均工賃月額（15,201円）を上回る工賃（25,000円）を実現。
- 荒廃農地を活用し、農地面積は、平成23年度の1.2haから令和4年度には15haに拡大。

所在地 ▶ 茨城県つくば市大角豆2168-1
連絡先 ▶ TEL:029-875-5660 E-mail:—
ウェブサイト ▶ <https://yf-tsukuba.com/>

【取組のプロセス】

平成23年

農業者の不足
障害者の働く場所
の不足

きっかけ

議員インターシップに参加し、農業と福祉双方の問題を知り、自分事を感じたことから、この問題に関わりたいと考え、「ごきげんファーム」を設立

ごきげんファームの設立

- 農業者の後継者不足、障害者の働く場所が不足していることを解消したいと考え、「ごきげんファーム」を設立。



ごきげんファーム

地域の課題解決に
取り組む

近隣地域との連携

- 障害者の工賃向上を目標に取り組んでいたが、障害者や家族が望んでいるのはそれだけではないことを知り、暮らしの場や遊べる場、地域住民と交流できる機会を増やしていくことにシフト。
- 意識的に近隣地域への販売を増やし、地域との繋がりが深まっていくように定期的に夏祭りや収穫祭などのイベントを開催。
- 令和元年にはグループホームの運営を新たに開始し、障害者の暮らしの場を確保。



秋の収穫祭

令和4年

近隣地域約200世
帯に季節の野菜
セットを販売

活動の拡大

- 茨城県の平均工賃月額（15,201円）を上回る工賃（25,000円）を実現。
- 1.2haの農地から活動を開始し、荒廃農地を再生しながら、令和5年度には15haの耕地面積で農作業を実施。



耕作地

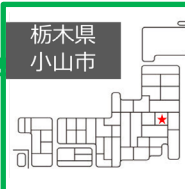
今後の
展望

幅広い農業への取組

- 地域にとって本当に価値ある農業のフィールドを作っていくことで、一緒に活動する人を増やしていく。
- お弁当の販売、カフェの開設等を予定しており、不登校の子供たちの居場所づくりや、子ども食堂、マルシェ、障害者家族向けのサロンの開催などに取り組み、地域住民が様々な形で関われる場にしていく。



収穫の様子



地元の重要な産業であった養蚕業の再興に利用者とともに取り組み、ノウフクJAS、6次産業化の認証取得により、農業から製造加工、販売、レストランでの接客等利用者の個性に応じた働く場の確保、農産品の付加価値化を図り工賃の向上を実現。

基本情報

- 所在地：栃木県小山市
- 団体名：社会福祉法人パステル
多機能型事業所CSWおとめ
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022準グランプリ「地域を耕す」、栃木県農業大賞 栃木県知事賞（令和2年度）
- 主力商品：桑茶、桑ジュース、桑の葉をパウダー化した使用したうどん、パスタ、菓子類、ジャムなど
- 取得認証等：ノウフクJAS



桑ジャムセット

取組の概要

- 多機能型事業所として、知的、身体障害者等の31名で、桑畑、落花生、野菜畑の管理、収穫に取り組み。栃木県農業アドバイザーから指導を受けた職員が農作業を、作業マニュアル等を使用し利用者にわかりやすく指導している。
- 7,000坪の桑農場で桑の栽培を行い、6次産業化事業認定、ノウフクJASの認定を受け、桑の葉を使った桑茶等の桑の関連食品等の生産に取組、商品は地元の小売店やインターネット通販等で販売。
- 併設しているレストランに、無農薬で栽培したビーツ、玉ねぎ、小松菜等供給するとともに、レストランの売店で、生産した野菜に加え、地元の方が生産した野菜を利用者が販売し、地域との連携を図る。



パステルCSWおとめ桑農場



収穫作業



ノウフクJAS製品（一例）



売店で野菜の販売

体制図

社会福祉法人パステル

連携

多機能型事業所CSWおとめ

○農業班 ○パウダー班 ○パン工房部
○レストラン“みゆぜ・ど・ばすてる”

多機能型事業所フロンティアおやま

○養蚕事業班

地域野菜生産者グループ、地域住民、小学校等

取組の成果

- 6次産業化などによる多様な業務を準備したことにより、平均工賃4万2千円を達成。
- ノウフクJASの取得により市内スーパーのマルシェ内に「ノウフクJAS」コーナーが設置され販売を開始。
- 桑の葉の需要増により、桑農園が開設当初の2,200坪から7,000坪へ拡大。
- 桑の葉収穫では地元住民、小学校との協力が得られ地域との連携が強化
- 農業収入は950万円になり、平成29年取組当初の2倍以上に拡大。

所在地 ▶ 〒329-0214 栃木県小山市乙女625-2

連絡先 ▶ TEL:0285-39-6088 E-mail:info@fukushi-pastel.jp

ウェブサイト ▶ <http://fukushi-pastel.jp>

【取組のプロセス】

平成27年

「フロンティアおやま」が養蚕事業を開始。桑の葉をテーマに6次産業化事業認定

きっかけ

地元の伝統産業の再興するため養蚕業に参入

荒廃農地を利用して養蚕業、農産物の生産に取り組む

- 桑の葉、桑の実の生産に加え、万願寺唐辛子、ビーツ、かぼちゃ、たまねぎ、小松菜、落花生等を生産。
- 桑の葉から、桑茶、桑の葉をパウダー化したパスタ、パウンドケーキなどの菓子類の商品、桑の実からジャム、アイスクリームなどの商品を販売。

平成29年

多機能型事業所「OSWおとめ」を開所、レストラン、桑農園を併設

令和2年

桑、落花生でノウフクJAS認定

利用者の工賃の向上

- 栃木県平均を上回る平均工賃3万5千円を実現し、月10万円を上回る工賃を実現した利用者も出て、自立自活の実現が推進。

地域との連携促進

- 桑の葉・桑の実の収穫は、地元小学校の児童、地域野菜生産者グループ、民生委員、地域住民の方の協力より行い、地域連携を促進。

令和3年

桑の実ジャムをテーマに六次産業化事業再認定

ノウフクJAS、6次産業化事業認証取得

- ノウフクJAS、6次産業化の認証取得により、農業から製造加工、販売、接客等、利用者の個性に応じた働く場の増加とともに、農産品の付加価値化につなげる。特に桑の葉、桑の実に健康に良い成分が含まれていることから栄養成分等の分析を行い、消費者にアピールし、桑の葉、桑の実による商品開発を推進。
- ノウフクJASの取得により市内大手スーパーのマルシェ内に「ノウフクJASコーナー」が設置され、販路拡大につながる。

今後の展望

地域の耕作放棄地を緑の桑畑に

- 桑茶などの桑関連食品の開発販路拡大を図り、さらなる桑農園の規模拡大で地域の荒廃農地を桑農園化しに地域産業の再興を図る。
- 桑農園を核とし農業体験や桑の実収穫を地域の“祭り”にして地域の活性化を図る。



桑の葉の収穫



桑茶及び桑ジュース



桑の葉うどん



桑パスタ



連携レストラン



パウンドケーキづくり

観光農園を営むグループ企業のいちご栽培を請け負うとともに、自社のキッチンカーやクレープ店での活用により、高収益を実現。

福祉事業所

栃木県
小山市



基本情報

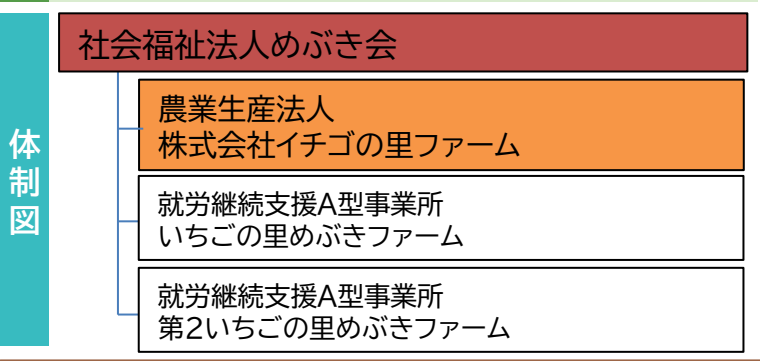
設立:R2年/農福連携取組開始:R2年

取得認証等:ノウフクJAS

概要

主力商品

(農作物)いちご



TEL:080-1185-4210 Mail:y.oguro@itigo.co.jp

きつかけ

人

地

未

取組

成果

R2年

かねてより近隣の社会福祉法人と農福連携を行っている中で就労継続支援事業について知り、自社での運営を開始。

人を耕す

- 体験の段階で多種多様な作業を試してもらい、その結果を踏まえて作業を決定。
- 指導員のもとで、作業ごとのチームを編成。能力の向上レベルに応じては、グループの農業生産法人へ農業従事者として、または社会福祉法人へ指導員として就労。

地域を耕す

- 施設外就労を行うことによりグループ企業である観光農園の生産性が大幅に向上。
- 農業者の高齢化に伴う荒廃農地の取得によって、自ら農業を開始。地域の農業に貢献するとともに、障害者の就労機会を拡大。
- 地域の幼稚園等のイベントに積極的に参加し、自社農園で採りたいちごを使った商品の提供を行っているほか、特別支援学校の体験実習なども積極的に受入れ。

未来を耕す

- 農業から製造・販売の6次産業化まで社会福祉法人で実施。
- 行政や地域住民との交流を積極的に行うことにより、障害の有無に関係なく皆が協力して地域づくりを行うことができるよう発信。
- R6年にノウフクJASを取得。

平均賃金月額	農作業に関わる障害者数	農業収入	農地面積
8万円(R3) →9万円(R5)	18人(R3) →22人(R5)	1,000万円(R3) →1,400万円(R5)	60a(R3) →85a(R5)

- それぞれの長所短所をみんなで補う適材適所の作業により、障害者の自信を創出。
- 障害者だけでなく、ボランティアや指導員として、定年を迎えた高齢者や地域の方にも農業に参加してもらうことで、地域での交流が進展。
- キッチンカーの営業、クレープショップ開設、動物広場や無人販売所の開設など、事業規模を拡大。



利用者の能力を引き出せる作業環境をつくることで、高い工賃による賃金収入と障害者年金による障害者の生活自立を促し、一般事業所での就職チャレンジを支援。

基本情報

- 所在地：群馬県前橋市
- 団体名：社会福祉法人ゆずりは会
障害福祉サービス事業所菜の花
- 選定表彰：ディスカバー農山漁村の宝関東農政局選定、ノウフク・アワード2022グランプリ
- 主力商品：たまねぎ、えだまめ、ほうれんそう、ブロッコリー、キャベツ、長ねぎ、にんにく、米、育苗、ライスセンター運営、ビール麦
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



水稻の育苗



たまねぎ苗の出荷

取組の概要

- 約15haの農地で、えだまめ、たまねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう、長ねぎ、キャベツなどを栽培。ライスセンター運営による乾燥調製作業を受託。
- 無肥料・無農薬の自然栽培による米作りや野菜を生産し、安全安心で環境に負荷をかけない取組を広げる。
- 出荷規格に合わない野菜を地元の食品企業へ持ち込み、もったいない野菜によるぎょうざを外注製造。
- 障害者の農作業は、職員が障害者一人一人の特性を見極めて作業を配慮。
- 法人としては、地元農業協同組合の正組合員となり認定農業者として認定。
- 農福連携クラフトビール・プロジェクトに参画し、ビール麦を栽培。



地元小学生との田植え



乗用機械でのほ場管理



枝豆の収穫作業



収穫した農産物の出荷

体制図

社会福祉法人ゆずりは会

就労継続支援B型事業所：菜の花、ゆずりは、エール

就労継続支援A型事業所：かたばみ（あいりす）

共同生活援助事業所：フォルテ

近隣農家

教育機関

民間企業

取組の成果

- 耕作面積：取組当初(平成26年)の約4haから約15ha（令和5年）に拡大。
- 平均工賃（月）：約7万6千円（令和4年）となり、群馬県内で一番の工賃支給となる。取組当初の約2万7千円から2.8倍以上に上昇。
- 乾燥受託：取組当初の13件から年々拡大し、60件（令和5年）となり、約4.6倍に増加し、地域の基幹作物となる米の生産維持に寄与。
- 野菜苗の生産：たまねぎの苗は、県内外福祉事業所に10万本以上販売。

所在地 ▶ 群馬県前橋市青梨子町379-1

連絡先 ▶ TEL:027-226-6090 FAX:027-226-6126

E-mail:nanohana2014@rose.plala.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.yuzurihakai.org/corporate/nanohana/index.html>

【取組のプロセス】

きっかけ

利用者の工賃向上と活躍の場の拡大のため、農業路線を拡大

平成26年

JAが共同乾燥施設内の乾燥機を譲渡

平成27年

荒廃農地の増加
地域活力の低下
工賃の向上

平成28年

より一層の工賃向上を目指し、農業路線を拡大
一部、自然栽培にもチャレンジ開始

平成31年

地元保育所、小学校との連携開始

令和2年

法人として
認定農業者に認定

令和3年

栽培面積13haになるとともに、農業による平均工賃5万円を達成

農福連携で工賃向上が可能であることの全国モデルになることを目指して活動を前進

今後の
展望

近隣農家等との農福連携

- JAが運営していたライスセンターの廃止により、乾燥機を譲り受け、乾燥調製作業を受託。共同乾燥ではなく、農家ごとに乾燥を実施。
- 米の苗生産、委託販売を開始、認定農業者として地域の担い手に。
- 近隣社会福祉事業所へたまねぎの苗の販売や稲刈り作業の受託等による連携。

農業における機械化を推進

- 畑や田んぼでの作業はできるだけ機械化を進めることで、手間のかかる出荷作業に多くの利用者を配置したり、機械を使用できる利用者が増えてきたことで、出荷量を伸ばす。

教育機関や企業との連携により障害者が地域で活躍できる場づくり

- 社員の農業体験やカシオ社員食堂で自然栽培米を提供する「なのはなカシオ計算機（株）」による一反パートナー制応援プロジェクト」を実施。
- 地元の保育所、小学校との無肥料・無農薬の自然栽培による田植え、稲刈りの体験を実施し、地域との連携を推進。

他業種等との農福連携

- 京都西陣麦酒が農福連携クラフトビール「ふぞろいの麦たち」を製造。自然栽培によるビール麦栽培で参画。
- 地元食品企業による規格外野菜を用いた餃子の外注製造「ノウフクぎょうぞ」が完成。

高工賃と就労の実現に向けて

- 収益性の高い取組と、誰もが一般企業等へのチャレンジができる活動を継続。
- 地域農家からの信頼が、障害者の仕事ぶりにつながっており、今後も連携するパートナー達との輪を拡大し地域農業の活性化にもつなげていく。



ライスセンター作業



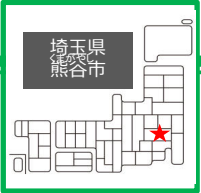
稲刈りの応援



ほうれん草の出荷



地元小学生の稲刈り体験



就労継続支援B型事業所やグループホームを運営し、農業を通じて障害者の就労から生活支援まで取り組む。ソーシャルファームの理念の下、誰も排除しない組織として、触法障害者、ニート、ひきこもり状態にある者など、社会的支援を必要とする人を積極的に受け入れ。農家300軒分のネギ苗づくりをはじめ、水耕や露地で野菜を栽培し、地域農業の中心的な担い手となっている。

基本情報

- 所在地：埼玉県熊谷市
- 団体名：埼玉福興株式会社
- 選定表彰：OLIVE JAPAN2016 国際オリーブコンテスト金賞、令和元年 第43回山崎記念農業賞、ノウフク・アワード2020優秀賞等
- 主力商品：露地でのたまねぎ、白菜、オリーブの栽培、水耕栽培でのサラダほうれん草、水菜、ルッコラ等
- 取得認証等：ノウフクJAS、ASIAGAP

取組の概要

- 就労継続支援B型事業所やグループホームを運営。34名の障害者が、施設での水耕栽培、ネギ苗の育成、露地での玉ねぎ、白菜、オリーブの栽培に従事。
- 仕事に人を合わせるのではなく、重度知的、精神、身体及び発達などの障害に応じた作業を作り、すべての障害者に仕事を創出。
- 障害者が不得手な作業は、地元の農業資材会社、白菜組合、オリーブオイルソムリエ協会などとパートナー契約を結び、連携することで分業化し、経営を効率化。
- 触法障害者、ニート、ひきこもり状態にある者など、社会的支援を必要とする人を積極的に受入。



オリーブ

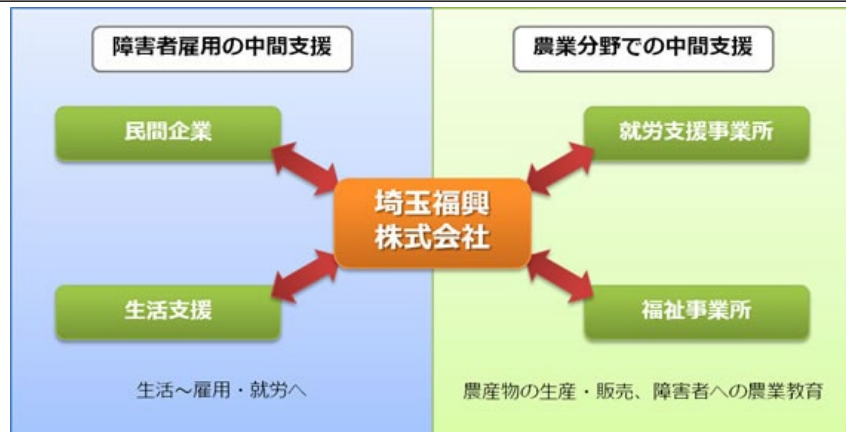


オリーブオイルコンテスト金賞



白菜畑での作業

体制図



取組の成果

- 水耕栽培、露地栽培、果樹栽培の組み合わせることで、一年を通した農作業を創出することにより、埼玉県の平均工賃を上回る20,000円/月を実現。また、これまでに自社及び他企業へ4名の一般就労を実現。
- 触法障害者2名を受け入れ。就労支援だけではなくグループホームなどによる生活支援により、約18年間、再犯していない触法障害者も在籍しており、現在は農業班のリーダーとして活躍。
- 福祉事業所6施設及び、農業法人3団体と連携してネギ苗づくりを実施しており、地域の約300軒の農家へ出荷。

所在地 ▶ 〒360-0203 埼玉県熊谷市弥藤吾2397-8

連絡先 ▶ TEL:048-588-6118 E-mail: arai@saitamafukko.com

ウェブサイト ▶ <http://saitamafukko.com/>

【取組のプロセス】

平成5年

きっかけ

工業生産の海外進出により、下請作業などの障害者の仕事が減少したことから、食に関わる農業であれば、仕事がなくなることはないと考え、障害者でも取り組める農業の研究を開始

平成15年

特定非営利活動法人Group Farm設立・独立

- 平成5年に社会福祉法人むさしの郷の生活寮として事業を開始。
- 平成15年にGroup Farmを設立、翌年、社会福祉法人むさしの郷から独立。
- 埼玉県への支援や地域農業者の協力を得て、障害者が農業に取り組めるよう、実験ハウスでの施設栽培を開始。

平成18年

個人として新規就農～農業生産法人化

- 平成18年、個人として農業経営基盤強化促進法により農地を借り受け、新規就農。
- 平成19年、埼玉県における株式会社の農業参入第1号として、農業生産法人となる。

平成21年

ソーシャルファームの推進に向けた実証モデル事業への取組

- 平成21年就労継続支援B型事業所「オリーブファーム」開所。

平成27年

研究への参画

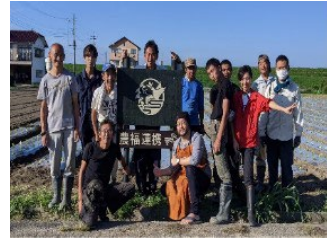
- 令和2年度、「障がい者養蜂での労働環境創出調査研究」に参画。
- 令和4年度、「特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援」に参画。

次世代Social Firm宣言

Social Firmの定義を「社会的健康」へ世界へ発信！

- 「地域に必要とされる特例子会社」の形を日本で初めて生み出す。生活介護・就労支援から障害者雇用までの、働くを選べる地域環境を創出。
- 藍染を通じた徳島と埼玉のアグリツーリズム、一つのノウハウツアーを開始予定。

今後の展望



グループの集合写真



たまねぎ



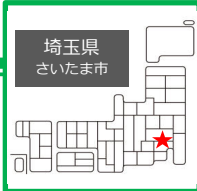
審査・認定の結果、以下の内容で、貴農場がASIAGAPの認定を
取得したことを証明いたします。

認定農場
埼玉協興株式会社

【認定の種別】 第100認定
【認定農場住所】 〒300-0203 埼玉県所沢市所沢200-4
【農産物の種類】 埼玉協興株式会社
03(57) 5475001 〒300-0203 埼玉県所沢市所沢200-4 (野菜)
とろろ 芋 03(57) 5475001 埼玉県所沢市所沢200-4 (野菜)
【認定対象の農産物分類と品目】 野菜類・「たまねぎ」
【農場主 氏名】 03(57) 5475001 管理会社協興 代表取締役 菅原伸二氏
【生産工程アドバイザー】 03(57) 5475001

【登録番号】 0110000001
【認定機関】 認定（生産者） 100 一般社団法人日本農業規格協会
【認定機関】 2019年12月28日 認定 井上 直
【認定期間】 2020年12月27日
【認定場所】 〒300-0203 埼玉県所沢市所沢200-4

ASIAGAP取得



障害者が、働きながら一般企業への就職や、安定した就労を実現することを目的に就労継続支援A型事業所を平成27年3月に開設。椎茸の生産から販売を通じて、経済的自立と安定した就業ができるようサポート。

基本情報

- 所在地：埼玉県さいたま市
- 団体名：株式会社ゼネラルパートナーズ
アスタネ
- 選定表彰：－
- 主力商品：椎茸
- 取得認証等：認定農業者



生椎茸



乾燥椎茸

取組の概要

- 就労継続支援A事業所「アスタネ」は、700㎡の土地にビニールハウス3棟を設置し、利用者約29名で椎茸の生産～販売に係る業務、運営を実施。
- 地元スーパーマーケットを中心に40店舗程度で展開。新型コロナの影響で一時的に生産規模を縮小したものの、その後、生産規模をもとに戻し、他の障害者施設とも協働し、成長中。
- 保育園とのイベントや、一般、グループ向け椎茸狩り体験を行うことで食育の推進に貢献。



菌床椎茸の栽培

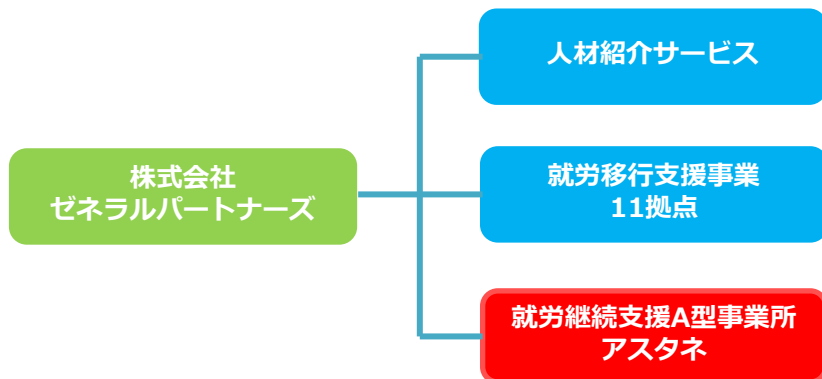


店舗での試食販売（令和元年）



保育園でのイベント

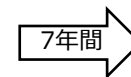
体制図



取組の成果

- 質の高い椎茸を生産するとともに積極的な販路の拡大により、農産物売上や利用者数も増加。平均工賃も毎年増加するなど雇用創出モデルを確立。

	平成28年度		令和5年度
農産物売上	976万円		1億1,300万円（11.6倍）
利用者数	11人		29人（2.6倍）
平均工賃	58千円		100千円（1.7倍）



所在地 ▶ 埼玉県さいたま市桜区西堀8-3-15-1

連絡先 ▶ TEL：050-3645-0686 E-mail：asutane@generalpartners.co.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.asutane.jp/>

【取組のプロセス】

「社会問題をビジネスで解決する」という理念を持ち会社設立

平成15年

きっかけ

世の中から障害者の差別偏見を無くすために、障害者の人材紹介サービスを開始。運営していく中で、自分達も障害者を直接雇用し働き方についても考えて行こうと始めた。

農業をすることで、自然と触れ合う事が出来、心身の回復に繋がるのでは!?

平成27年

就労継続支援A型事業所 アスタネ設立

- 平成27年3月、障害者が主体的に働き活躍するモデルを作ること、農業の社会問題（高齢化、担い手不足、荒廃農地）を障害者の活躍により解決することを目的に設立。
- 椎茸の生産から販売を通じて、経済的自立と安定した就業ができるようサポート。（農地面積300㎡、ビニールハウス1棟、利用者数10人、平均工賃50千円）



A型事業所 アスタネ

生産規模を拡大農業事業を利用者主体で運営

平成29年

働き方変革（障害のあるスタッフたちの主体的な働き方にシフト）

- 平成29年より、菌床変更を行うとともに利用者数を増加。定期的に面談を実施し、権限移譲を行い、各自が目標設定・チャレンジすることをサポートし、自立性を引き出す。
- 3～4人のチームで運営することで、仲間との連帯感や有能感を引き出す。
- 栽培データを活用した質の高い椎茸の安定生産により、利用者の賃金向上を実現。（農地面積700㎡、ビニールハウス3棟、利用者数29人、平均工賃64千円）



菌床椎茸の栽培

平成30年、事業の黒字化を実現

就業者数
平成30年5人
平成31年4人実現

令和2年

withコロナ

- 令和2年4月、新型コロナの影響から在宅勤務を導入するとともに生産規模を縮小。
- その後、取引先の小売店との協力で、販売動向に合った商品展開、販売企画を実施し、生産規模を回復、前年以上の売上を達成。
- 生産規模拡大のため、周辺のA型事業所に栽培ノウハウを提供し、協働で生産スタート。



販売の様子

令和3年、生活困窮者自立支援制度に基づき、生活にお困りの方の受入れスタート

令和6年1月、認定農業者に認定

今後の展望

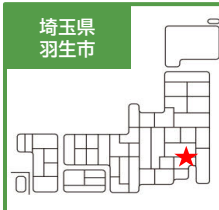
『精神障害者の雇用創出モデル確立 × 全国へ』

- 精神障害者の雇用管理方法やマネジメント手法をノウハウにまとめ、菌床椎茸の生産事業を収益化し、事業ノウハウとして確立。
- 現在、障害のある人が活躍する場を広げるため、他団体、他企業と組んだアスタネ型椎茸事業の展開に向けて、パートナー募集中。

農業コースの生徒が農業者の指導による農産物の生産、企業等との連携による新商品の開発・販売を通じて、農業への知識・技能を深め、社会に貢献できる人材育成を目指す取組を実施。

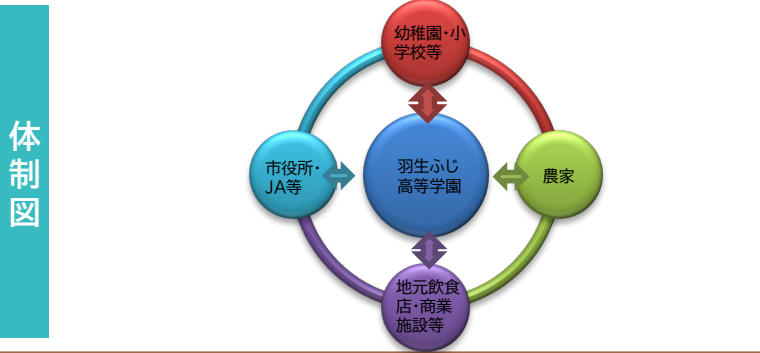
特別支援学校

埼玉県
羽生市



基本情報
設立: H19年/農福連携取組開始: H19年
取得認証等: S-GAP※埼玉県独自のGAP

概要
主力商品
(農作物)モロヘイヤ、トマト、いちご
(加工品)にんにく味噌、ビール



TEL: 048-560-2020 Mail: otuka.syunta.57@spec.ed.jp

きっかけ

H19年

高等部の職業教育の強化のために設置された学校。知的障害を持つ生徒の特性等が農業実習に適していることもあり、農業技術科を設け生徒の能力を引き出す取組を開始。

人を耕す

- 地域の生産者からそばやトマト栽培等の直接指導を受け、生徒自身のコミュニケーション能力の向上や、知識や技能の定着を実現。
- 生産した農産物を使った商品を生徒が企画立案し、地域の加工業者と連携して、加工品を製造。

取組

地域を耕す

- 開校当初より5戸の農家から学校周辺の遊休農地を借用。実習で年間を通して農産物を生産しており、生徒たちの技能向上に寄与。
- 地域飲食店・学校給食関係からの依頼で、モロヘイヤを栽培・提供するほか、規格外の農産物を活用した商品の開発・販売を実施。

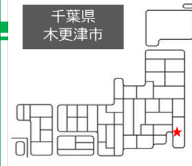
未来を耕す

- 地域の特産品を活かした「モロヘイヤうどん」やビールの製造等、地元企業や行政、JA、農業高校等と連携した商品開発により、障害者の就労の場を設けることと同時に、フードロス問題の解消や付加価値の向上も実現。
- 近隣農家、JA、県農林振興センター、盆栽家等、様々な専門家による出前授業を実施。

成果

生徒数	年間売上高	温室・作業室当面積	耕地面積
30人(R5) ※1学年10人	20万円(H19) →70万円(R5) ※90万円(コロナ前)	11.8a(R5)	36.7a(R5)

- 農業実習を通して、2年生以降、作業機械の取扱いを学ぶとともに、小型系建設機械免許を11名が、フォークリフト資格を17名が取得。
- 生徒が校内外のイベント販売により、加工品にした時の付加価値の向上も同時に体験することで、社会に提供する喜びと責任感を体感。
- 県農林振興センターと連携し、R2年にS-GAP認証を取得。農作業を展開する上で安全面での生徒の意識向上に寄与。



遊休農地を活用した高収益のブルーベリー（無農薬・無化学肥料）を栽培し、新たに障害者と高齢者の雇用機会を創出。観光農園として、首都圏住民の誘客が図られ地域活性化にも大きく貢献。6次産業化による高い工賃も実現。

基本情報

- 所在地：千葉県木更津市
- 団体名：特定非営利活動法人一粒舎
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021優秀賞
豊かなむらづくり農林水産大臣賞（2016年）木更津市観光ブルーベリー園協議会で団体表彰
- 主力商品：イベントへキッチンカーで出向き販売、ブルーベリー、ブルーベリー加工商品（ジャム・クロワッサンサンド・スムージー・パフェ等）、無農薬野菜
- 取得認証等：有機JAS



ブルーベリーを使用した商品

取組の概要

- ブルーベリー栽培、加工、販売、観光農園スタッフとして障害者20名が仕事に従事。1.2haのブルーベリー園の管理のほか隣接する里山3haを保全管理。
- 作業機械の講習を行い、安全に機械操作ができる障害者が増加。機械操作が不得手な障害者は、野菜作りなど、手作業中心の仕事を担当。職域を広げ、観光農園の受付やレジに障害者を登用。
- ブルーベリー以外にも荒廃農地となった里山の竹や草を刈った後に桜や菜花を植栽。
- 2021年にブルーベリー園が有機JAS認定。
- 職員（11人）の平均年齢68歳。農業未経験者の第二の就職先として、福祉と農業に高齢者ならではの知恵と力を発揮。



ブルーベリーの摘みとり



地域住民依頼の草刈作業



再生された里山

体制図

特定非営利活動法人 一粒舎

就労継続支援B型事業所

ブルーベリー農園のらり・くらり

カフェ風の里

近隣農家

木更津市

木更津市観光ブルーベリー園協議会

道の駅うまぐたの里

取組の成果

- 耕作面積：取組当初（平成19年）の2,500㎡から12,000㎡（令和5年）に拡大。
- 平均工賃（月）：約5万900円（令和5年）となり、取組当初の1万8千円から約2.8倍に上昇。工賃は千葉県内に約400あるB型作業所の中で5番目以内。
- 障害者就労：取組当初の16人から20人（令和2年）に就労拡大。
- 波及的な成果：地元小学校にブルーベリーが植樹されるなど、地域特産として児童の情操教育にも貢献。市内の全小学生対象に、毎年協議会の摘み取り案内のチラシを配布。

所在地 ▶ 〒292-0211 千葉県木更津市大稲54-1

連絡先 ▶ TEL：0438-53-8115 FAX：0438-53-8116 E-mail: iidak22@yahoo.co.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.norarikurai.info/>

【取組のプロセス】

平成19年

荒廃農地の増加
地域活力の低下
工賃の向上

木更津市に相談

平成20年

リタイアする農家
が急増

平成22年

平成30年

カフェ、道の駅に
よる販路開拓

今後の
展望

きっかけ

最低3万円の工賃を目標にして福祉事業所を開設したが、景気低迷により下請作業が減少したことから農業を検討

梨園跡地でブルーベリーを植栽

- 下請けしていた従来の仕事がなくなり農業を検討。
- 遊休農地の活用を木更津市に相談し、「高収益」と「農薬を使わないブルーベリー」に惹かれ取り組む。

梨園の跡地を借りて開墾し400本植栽。

近隣のリタイア農家から田畑賃貸が急増

- 農家の高齢化とともにリタイアする農家より農地を賃借。
- ブルーベリーが当初植栽した400本から1200本に増加。ブルーベリー園を拡大。
- NPO法人格を取得。平成23年から就労継続支援B型事業所へ移行。
- 圏央道開通に伴い、キッチンカーを導入。

カフェ 風のさと開設、無農薬新鮮野菜商品の開発・販売

- 廃屋の納屋を改装しカフェを開設。観光農園、カフェのレジは障害者が担当し新たな雇用の場を創出。職員は異業種を定年退職した高齢者が第二の職場として活躍。
- 無農薬野菜とブルーベリージャムをクロワッサンサンドにして道の駅でも提供。
- キッチンカーを作り、様々なイベント会場に出店。ブルーベリーのスムージーやパフェを提供して、ブルーベリーの魅力を宣伝。

ブルーベリーがつくる新たな農福連携に挑戦

- ブルーベリー観光農園を柱とし、里山の自然を生かした体験型イベントや花の里として新たな関係人口を創出。
- 令和3年に有機JAS認定。さらに来園者・障害者雇用を増やすきっかけづくりとしたい。
- 農業+福祉+高齢者の仕組みを確立して、地域の活性化を図りたい。
- 利用者の月当たり平均工賃を5万円以上にしていく。



キッチンカー



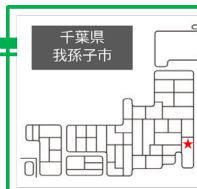
イベント（感謝祭）



風のさと（カフェ）



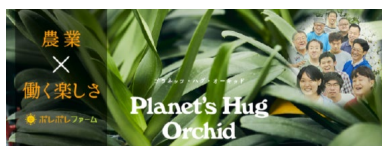
利用者、職員全員集合写真



帝人(株)の特例子会社としてオーガニック野菜や胡蝶蘭等を生産。監督職員が技術指導・生活相談・ジョブコーチを兼務し、高品質・生産性向上・低コスト化及び社員の成長を実現。

基本情報

- 所在地：千葉県我孫子市
- 団体名：帝人ソレイユ（株）我孫子農場
（屋号：ポレポレファーム）
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：胡蝶蘭、野菜類、干し芋、
食用バラ/エディブルフラワー、
農作業ボランティア、ピザ窯ランチ
- 取得認証等：－



農業×働く楽しさ

取組の概要

- 自社農園で、高付加価値の①オーガニック野菜（2 ha）、②エディブルローズ（中型ハウス 1 棟）、③胡蝶蘭（大型ハウス 1 棟）を生産・販売。
- 農業事業部に18名を最低賃金以上で雇用、マネージャー3名（うち1名が農福連携技術支援者、障害者職業生活相談員、企業在籍型職場適応援助者）がジョブコーチ役を兼務し、高品質・生産性向上・低コスト化、さらには社員の成長を実現。
- 大企業の強みをフル活用し、大型投資（胡蝶蘭ハウス5千万円等）、CEO等のトップセールス（胡蝶蘭）、国内社員1万人の協力・支援、定期メルマガ受信5,700名等）を背景に、順調に雇用拡大と黒字化に向けて進捗。



胡蝶蘭栽培の様子



胡蝶蘭ブランド



オーガニック野菜 エディブルフラワー



体制図

帝人（株） 親会社

帝人ソレイユ（株）特例子会社

オフィスサポート部

農業事業部（ポレポレファーム）

胡蝶蘭事業グループ / 野菜・バラ事業グループ

社会福祉法人
障害福祉サービス事業所

特別支援学校

取組の成果

- 障害者雇用者：当初（平成31年）の3名から18名（令和6年）に拡大。
- 平均賃金：約16万円（最賃×7.5h×21日）を維持し雇用者を拡大。
- 売上額：前年比140%で伸長して数千万円（令和5年）に増加。
- その他の成果：野菜事業は宅配と直売所でほぼ完売。胡蝶蘭は、大手企業を中心に150社超から受注があり、順調に推移。特長ある取組が評価され、NHKをはじめとしたメディアから多数の取材を受ける。
- 令和5年、障害者雇用を行う優良な中小事業主として、厚生労働省による「もにす認定」事業者となる。

所在地 ▶ 〒270-1101 千葉県我孫子市布佐845-1

連絡先 ▶ TEL:04-7199-9591 E-mail: porepore_farm@teijin-soleil.com

ウェブサイト ▶ <https://teijin-soleil.co.jp/>

【取組のプロセス】

障害者のクオリティ・オブ・ライフの向上
共生社会の実現、
社員の成長

平成27年

きっかけ

障害がある家族を持つ社員有志が特例子会社設立を企画提案し、
帝人（株）の経営会議で会社設立が承認され（平成30年）、有志社員の一部が
人事異動して経営に携わる

平成31年

会社設立により障害者雇用を開始。特例子会社として認可

- 平成31年会社設立。我孫子農場での農業班3名、東京本社でのオフィスサポート班4名の7名で障害者雇用を開始。
- 特例子会社として認定。オーガニック野菜の出荷開始。



オーガニック野菜

令和2年

胡蝶蘭ハウスの竣工、食用バラ/エディブルフラワーの生産開始

- 胡蝶蘭ハウスが竣工。農業事業部の下に胡蝶蘭事業グループを新設。
- 食用バラ/エディブルフラワーの販売開始。我孫子市内レストランに販売・出荷。
- 干し芋生産の開始。我孫子直売所で販売し完売。



エディブルフラワー

令和3年

胡蝶蘭アレンジメントのリリース、胡蝶蘭ブランドの立ち上げ

- 胡蝶蘭を使用したアレンジメントフラワーを外部と組んで開発し、新発売。
- 胡蝶蘭ブランド「Planet's Hug Orchid」を立ち上げ。
- 我孫子市のふるさと納税返礼品として胡蝶蘭アレンジメントを登録。



胡蝶蘭アレンジメント

令和5年

バラ調製作業を福祉事業所に外注、「もにす認定」事業者となる

- バラの出荷調製作業を我孫子市内のB型事業所の施設外就労作業として外注を開始。
- 厚生労働省より優良な障害者雇用主として「もにす認定」を取得。

今後の
展望

障がいのある方々にとっての“新しい現実を創る”

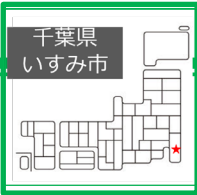
- 「農福連携」という国を挙げた農業での障害者雇用拡大の動きも追い風にしながら、企業型の成功モデルを確立し、「ハンディキャップのある方々がこんなにスゴイことをやっているんだ！」という驚きを世界に発信していけることを目指す。



ポレポレファーム
ポレポレファームロゴ

更新年度：R5

Joy at Work
(やりがいと働く
楽しさ)の具現化



地元の牧場が堆肥を活用して約20年間行ってきた食用菜花栽培を事業継承し、約4,500坪の畑を障害者、職員、地域との連携ネットワークを活用し、農業経営に取り組む

基本情報

- 所在地：千葉県いすみ市
- 団体名：社会福祉法人 土穂会
障害福祉サービス事業所
ピア宮敷第1工房
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022
フレッシュ賞
- 主な取組：菜花経営、ハーブ育苗・栽培、米育苗、ごま油製造販売、梨剪定枝拾い、ライ麦ストロー、ホエイドレッシング製造
- 取得認証等：－

菜花畑にて作業をおえた利用者

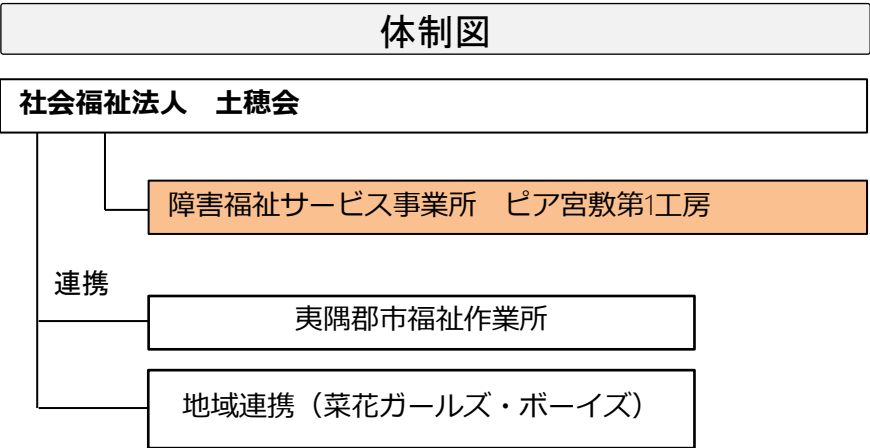
取組の概要

- 地元の牧場経営者から事業継承を受けた菜花生産を、栽培、収穫、出荷、販売まで農福連携により取り組む。
- 地元JAや農業事務所による栽培指導を受け農作業の知識、経験不足を補う。
- 菜花の品質保持のため長年菜花栽培に関わる地域の高齢者（菜花ガールズ）が参画。
- 生産性向上のため利用者の強み、個性を活かした作業の見極めを行う。職員の育成の場として「農業で福祉が伸びる」を合言葉に取り組む

利用者による菜花収穫の様子

枝を使って間隔を図り菜花定植作業

選別作業中の利用者



【取組のプロセス】

令和元年

日中活動として
ごま油製造、切り
干し大根加工に携
わる

菜花栽培を開始

令和2年

菜花に加え梨の剪
定し合い受託

ライ麦ストローや
ハーブの育苗を受
託

令和4年

地元農家等からの
依頼で米苗づくり
の開始等地域から
相談が入り始める

今後の
展望

きっかけ

地域活動で知り合った牧場が約20年間黒字で続けてきた食用菜花栽培を高齢化と人手不足で辞めたことを聞き、「もったいない」気持ちから勢いでスタート

事業継承による菜花栽培

- 事業継承により菜花のほ場やトラクター等の大型機械の無償貸与を受け、菜花の栽培から販売までに取り組む。
- 販路の確保ができていたこと、栽培に関してオブザーバーがいることで安心してスタート。
- 菜花栽培は障害者だけでなく、地元の高齢者グループ「菜花ガールズ」と協力し取り組む。

農福連携による広がり

- 菜花事業をきっかけに、ほかの農業生産団体からの仕事の受注につながる。
- 都内企業からの農業体験の受け入れなどを通して連携の輪が広がる。
- 近隣の地域の農家へ施設外就労で人手不足解消の一役を担う。
- 菜花が地元の飲食店で食材として使われてたり、いすみ鉄道とのコラボレーションによる菜花うどんの商品化につながる。
- 特別支援学校の農業体験受入等も行う。

取組の工夫

- 利用者がより活躍できる支援の方法を模索し、事業所の職員が農家に経営などを学ぶとともに、菜花の栽培マニュアル等の作成や利用者一人一人に合わせた治具の作成等を行う。
- 利用者の力量を決めずに、なんでもやってみようという声掛けを行い、利用者の強みを発見し作業に反映するとともに、タイムマネジメント、効率化などにも取組生産性の向上を図る。

農業で福祉が伸びる

- 法人の協力体制の広がりから職員の支援力アップ、そして利用者の活躍の場面が広がることで農業により福祉が伸びることを実感した。農家から応援依頼も増え、ピア宮敷だけでなく、他のB型事業所と農家をマッチングし、地域全体で農福連携の促進を図る。



笑顔で作業している利用者さん



職員の支援力アップに向けた勉強会



いすみ鉄道とのコラボによる
菜花うどん

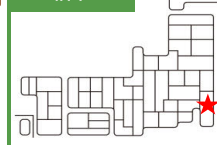


地元の飲食店に菜花を使った
食材の提供

組合員と障害者就労施設とのマッチングにおいて、作業内容と対価をJAが調整することで年間80件のマッチングに拡大。JAの部会で初となるノウフクJASを取得。

JA

千葉県
柏市



きっかけ

R3年

生産者の悩みである将来的な労働力確保について、スポット的な労働力提供として、福祉の力を借り、農業現場での農福連携に着手。

人を耕す

- 農家と福祉事業所の間を調整し、労働に見合った作業単価を決定。作業難易度をグラフ化し、各事業所のスキルに合った仕事を提供。
- JAの青壮年部会での農福連携の説明会を通じて、農家の理解が深まり、参加者が増加。
- 地域包括支援センターと共同して、障害者だけでなく、ひきこもりの状態にある者や犯罪をした者も受け入れられるよう環境を整備。

地域を耕す

- 労働力が減少する中で、管内で農福連携に取り組む農家にとって、障害者は必要不可欠な存在になっている。
- 農福連携に取り組む農家は、福祉事業所と協力して地域イベント実施、加工品開発等に取り組むほか、生涯大学校や高校と連携し、幅広い世代を対象とした農福連携の啓発活動を実施。

未来を耕す

- 農福連携のマッチングにより、地域農業の安定化につながっていることが、メディアで取り上げられるようになり、JAグループ内や市町村等によるセミナーでの発表機会が増加。
- ノウフクJASを取得し、販路拡大を強化。

基本情報

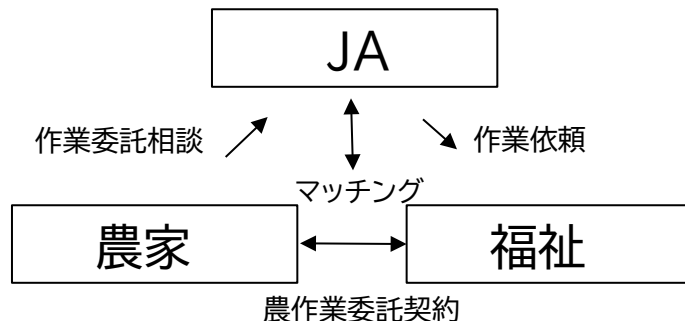
設立:H22年/農福連携取組開始:R3年

取得認証等:ノウフクJAS

概要

特徴的な取組
中間支援

体制図



成果

参加福祉事業所数

1事業所(R3)
→19事業所(R5)

参加農家数

2戸(R3)
→15戸(R5)

マッチング件数

1件(R3)
→80件(R5)

—

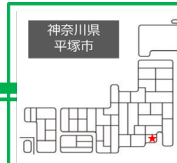
- 県担い手支援課や農業事務所、農業者支援センターとも共同し農福連携の見学会を実施し、40名が参加。農家から新たにマッチングを希望する声が上がった。
- 対外的な活動が増加し、見られる事が増えた結果、農家も福祉事業所も「注目されているからもっと頑張ろう」という気持ちで団結力が高まり、作業のスキルアップを実現。

TEL:090-9816-9045

Mail:Shohei-Kawashima@ja-chibatoukatu.or.jp

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

更新年度:R7.1



6次産業化と農福連携を組み合わせることで障害者の工賃向上と新たな地域ブランドを確立。マルシェ・バザー等にも積極的に参加し、交流人口が拡大。

基本情報

- 所在地：神奈川県平塚市
- 団体名：社会福祉法人進和学園 しんわルネッサンス
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：農産物加工品
- 取得認証等：－



湘南とまと工房



植樹用苗の生産

取組の概要

- 1974(昭和49)年から自動車部品車の仕事を中心に事業を展開。社会情勢の変化にあわせて作業種の多角化を推進し、農産品加工、地元スーパーでの施設外就労にも注力。
- 自社ブランド「湘南とまと工房」を立ち上げて、ジュース、ピューレ、ジャムを製造、販売。2021(令和3)年にHACCP認証を取得。
- 障害者本人の自立・工賃向上の一環として、どんぐりや木の実から植樹用のポット苗を栽培し苗木を各所での森林再生や緑化活動に広く活用。



加工用トマトの下処理



加工商品のパッキング



加工の様子

体制図

社会福祉法人進和学園

しんわルネッサンス
(就労継続支援A型・B型事業所)
サンメッセしんわ
(就労継続支援B型事業所)

連携

神奈川県・平塚市
JA、個人農家他

自動車部品組立

湘南とまと工房

いのちの森づくり

パン・菓子等

(株) 研進 (営業)

連携

本田技研工業株式会社

取組の成果

- 受託加工：取組当初(平成23年)の150万円から2,100万円(令和4年)に拡大。
- 障害者雇用・就労：取組当初の8人から20人(令和4年)に拡大。
- 波及的な成果：6次化によりJA及び個人農業者の取引先が60か所、連携する農家等からのトマトの取扱量は年間約15トンと地域農業の発展に貢献。

所在地▶〒259-1204 神奈川県平塚市上吉沢1520-1

連絡先▶TEL:0463-58-5414 E-mail:rune-selp@shinwa-gakuen.or.jp

ウェブサイト▶<http://www.shinwa-gakuen.or.jp/>

【取組のプロセス】

円高の影響による
国産部品輸出の減
少、海外サプライ
ヤーからの部品調
達の増加

規格外農産物の有効
活用

6次産業化交付金
による加工施設の
整備

平成23年

きっかけ

自動車部品の組立作業を受注してきたが、社会情勢の変化により受注が落ち込み、事業の多角化を決意
障害者への「良質な仕事の提供」と農業者と連携する
事での地域貢献を目指した農産品加工を開始

平成25年

6次産業化総合化事業計画の認定、農産物加工施設を整備

- 地域で生産された規格外のトマトやみかん・自前の農園で栽培するブルーベリーを活用して、ジュースやジャムを製造することで障害者の雇用・就労機会を創出。
- 自社ブランド「湘南とまと工房」を立上げ、生産・販売を開始。
- 摘果されたみかんを使用した「湘南みかんパン」が第4回全国逸品セレクションで準グランプリを受賞（平成27年）。



湘南とまと工房



湘南みかんパン

平成30年

さらなる販路拡大に向けてインターネット販売を開始

- (株)研進と連携し、インターネット販売（楽天市場等）を開始。
- 地元平塚の「湘南ひらつか名産品」に認定される。また、平塚市のふるさと納税の返礼品としても活用。

令和3年

品質維持・向上を図るためHACCP認証を取得

- 食品衛生管理に関する勉強会等に積極的に参加。
- 製造量及び加工品目拡大のため、蒸気ボイラーを導入し、新たに設備を整備。



HACCP認証取得

令和5年

第64回全国推奨観光土産品審査会にて「農林水産大臣賞」受賞

- 日本商工会議所及び全国観光土産品連盟主催の審査会にて「農林水産大臣賞」を受賞し、取組や商品のアピールに繋がった。

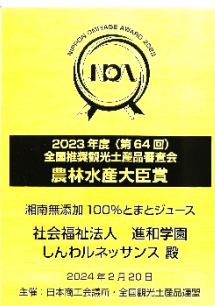


集合写真

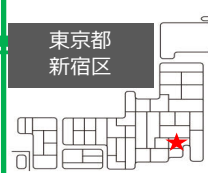
今後の
展望

地域社会の支援、本人の勇気、職員の努力と熱意、ボランティアの協力、家族の団結、行政の応援といったチームワークを推進

- ネットワークの交流が拡大し、平塚市・飲食業者・農協・漁協とのコラボ商品といった地域の魅力を高める商品を開発。
- 加工品としてレトルト商品を開発し、さらなる販売強化、インターネットを活用した販路拡大を実践。



農林水産大臣賞
受賞



新宿区内の身体・知的・精神障害者が通う福祉事業所等30か所が集まり、（公財）新宿区勤労者・仕事支援センターを事務局として、障害者の工賃向上や地域交流を目的にネットワークを組織。「しんじゅQualityみつばちプロジェクト」を立上げ、都心のビル屋上等を利用した養蜂事業を展開し、サステナブルな社会の実現に貢献。

基本情報

- 所在地：東京都新宿区
- 団体名：新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021フレッシュ賞
- 主力商品：養蜂、はちみつ
- 取得認証等：－



しんじゅQualityみつばちプロジェクト

取組の概要

- ネットワーク・オリジナル商品づくりとして障害者による養蜂事業を企画立案し、新宿区の協力もあり実現。はちみつを使った商品の製造、販売や大手百貨店とのコラボ商品・ブランドづくり、販売会を実施している。
- 障害者は、蜜蜂の飼育・採蜜・はちみつの瓶洗浄、ラベルシール貼りといった作業に取り組む。障害の違う事業所が連携・分担し、障害者自身が主体的に取り組むなど新たな仕事を生みだしている。
- 都内ホテルではちみつを提供する宿泊プランや、有名菓子店ではちみつを使った菓子づくりが行われ、商品としてのブランドの付加価値を高めている。



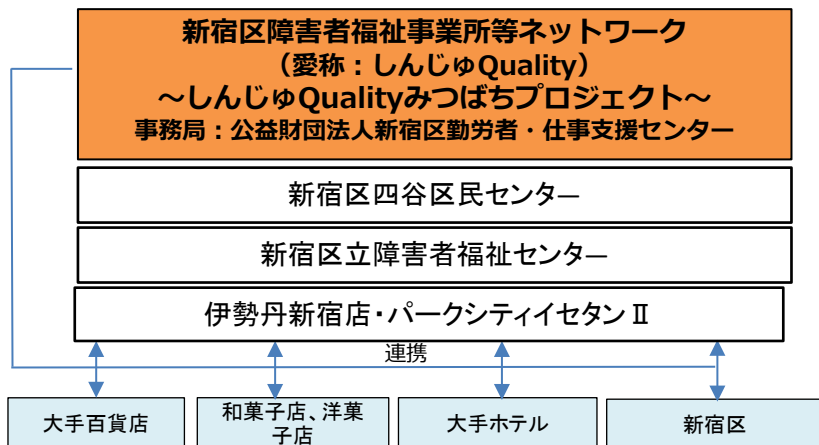
パークシティセタンⅡでの養蜂作業とMIELはちみつ



障害者センターでの養蜂作業と新宿しQハニー



体制図



取組の成果

飼育委託費：設立当初（令和元年度）の42万円から255万円（令和5年度）に拡大。

養蜂拠点：設立当初（令和元年度）の1拠点から3拠点（令和3年度）に拡大。

波及的な効果：養蜂事業を通じて、百貨店、飲食業関係者、都市住民等、今までつながりのなかった人達との新たな関係が構築できた。また、障害者への理解の促進や、生き物と自然環境の保護の重要性を地域社会に伝えることに役立っている。

所在地 ▶ 〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目3-29 新宿こ・から広場しごと棟

連絡先 ▶ TEL:03-5273-3852 FAX :03-3208-3100 E-mail:shinjuQuality@sksc.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.sksc.or.jp/shinjuQuality/>

【取組のプロセス】

平成28年

都心における新規
ブランドを検討。

きっかけ

新宿区内障害者福祉事業所製品のブランド化検討のため、有志事業所によるブランドプロジェクト企画を検討

しんじゅ
Quality



平成30年

ビル屋上を利用し
た養蜂事業を企画。

ネットワークの愛称「しんじゅ Quality」と決定

- 様々な障害の違う福祉事業所等30か所が集まり、それぞれの特性を発揮し、主体性を持って活動できる環境を作るため「新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク」を設立。ネットワークの愛称を「しんじゅ Quality」と決定。

令和元年

養蜂事業「しんじゅ Qualityみつばちプロジェクト」を開始

- オリジナル商品づくりを目指して、新宿区四谷区民センターで養蜂事業を開始。
- 新宿マルイ本館・新宿高島屋で自主製品の販売会「しんじゅ Qualityハンドメイドマーケット」を開催し、障害者が社員と協力し販売業務を実施。



しんじゅ Quality
ハンドメイドマーケット

令和2年

都心ビル屋上に養蜂拠点を拡大

- 新宿区立障害者福祉センター屋上（令和2年度）、伊勢丹新宿店パークシティイセタンⅡ屋上（令和3年度）に養蜂拠点を拡大。
- 前年度に養蜂活動を実施した事業所の障害者が、新たな事業所に養蜂作業のレクチャー、サポートを実施。親子連れをはじめ様々な地域の人達の見学が増加。

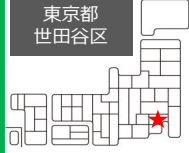


養蜂の様子

今後の
展望

多様な人や様々な生き物が互いを受容し助け合い共存共栄できる サステナブルな社会の実現に貢献する

- 「しんじゅ Quality」の活動を通して、障害者と地域の企業、学校、行政、地域住民など子供から大人まで、そしてあらゆる生き物が互いの価値や魅力を合わせることで、新しい「地域の力」を創造する。



世田谷に誰でも参加できるインクルーシブな「夢育て農園」を開園し、知的障害者・発達障害者の教育法を日々進化させつつ、質の高い「農福×教育」事業を展開。

基本情報

- 所在地：東京都世田谷区
- 団体名：夢育て農園（株式会社夢育てとNPO法人ユメソダテが共同で運営）
- 選定表彰：2023グッドデザイン賞（ニコニココイン）、ノウフク・アワード2023チャレンジ賞
- 主力商品：有機野菜、藍、みかん等

- 取得認証等：－



農園の様子

取組の概要

- 知的障害者・発達障害者を対象に、系統的認知能力強化と運動機能強化、主体性を育てる夢語りの時間と、農作業を組み合わせた「人を育てる畑青年コース」を週1回2時間半開講。播種・定植、施肥、収穫・調製、除草、鍬振り等の作業を通じて認知的発達・成長を図る。令和6年1月から小中高校生向け少年少女コースも開講。
- 多品目野菜の有機栽培を中心に、誰でも参加できるオープンデイを毎月開催しており、令和4年のみかん狩りには5200人が参加。ノウフクフェスタや地元での販売も実施しており、千葉大と共同で製造したみかんソースなどを販売。



修了式の集合写真



ニコニコみかんソース



授業風景



多様な人が参加

体制図

夢育て農園設立委員会
(株式会社夢育てとNPO法人ユメソダテの合議体)

幹事会

農福コミュニティチーム

人を育てる畑チーム

栽培管理チーム

取組の成果

- 唾液から受講前後のストレス変化を計測し、高ストレス・心身不活発な状態で参加した受講者が、コース受講後には劇的にストレスを下げ、かつ心身を活性化させたことを明らかにした。
- 受講生に心理テストを実施し、明確な認知的成長を定量的に計測。受講生はできなかった作業ができるようになり、福祉活動へ積極的に参加するようになる者や、就労を実現する者も出てきている。令和5年11月には、高齢・障害・求職者雇用支援機構の発表会にて成果を発表。

所在地 ▶ 東京都世田谷区弦巻 3-3-8

連絡先 ▶ TEL: 080-5088-6271 E-mail: maekawa@yume-sodate.com

ウェブサイト ▶ <https://yume-sodate.com/>

【取組のプロセス】

平成30年

夢や希望を育てる
傾聴伴走活動本格
化

神奈川TV&TV埼
玉で紹介

第5回夢への作戦
会議でお金が使え
ない原因を検討

クラウドファン
ディングの活用

高障機構職リハ：
夢育て&認知プロ
ファイル論文発表

ニコニコイン完成

夢育て農園開園&
人を育てる畑開講

ストレス変化計測

認知発達計測

あおばエールとコ
ラボでお買物講座

Good Design
Award 2023受賞

高障機構職リハ：
ストレス&認知発
達論文2本発表

少年少女コース開
講

X day
認知の学校設立

今後の
展望

きっかけ

支援学校卒業後の学びの場がない「18歳の壁」に問題を感じ、「社会が夢を育て、夢が人を育て、人が社会を照らす循環づくり」を目指して設立

NPO法人設立

- NPO法人ユメソダテ設立。障害や生きづらさを抱える人など、すべての人の夢の語り場を作るイベント「夢への作戦会議」を開始し傾聴・伴走活動開始。

ニコニコイン開発

- 障害者がお金を自由に使える、買い物が楽しくなるようにコインケース「ニコニコイン」を開発。
- GOOD DESIGN AWARD グッドデザイン賞受賞。

畑での認知発達促進活動&地域との交流

- 夢育て農園を開園。知的発達障害があっても認知的に成長できることの実証を目指し、人を育てる畑コースを開講。
- 誰でも参加できるオープン日を毎月開催。毎回参加者が増加し、地域交流会の様相となる。インクルーシブなコミュニティづくりに邁進。

農福×教育事業の更なる発展

- 農福連携による障害者の認知機能向上・自立促進の可能性を追求。障害者への教育法を伝えるワークショップを開催し認知発達促進法を普及。
- 誰もが夢を育み、目指すことのできる「夢を育てる社会」とするため、どんなに障害があっても、いくつになっても成長できる「認知の学校」設立を目指す。



農園の様子



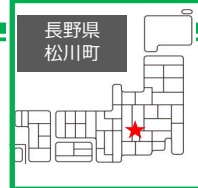
Good Design賞受賞



多様な人が来園



畑での授業風景



地域の高齢の農家などから農地を積極的に引き受けて、農業生産の規模を拡大するとともに、ノウフクJASの認証を初めて受けた事業者として、農福連携の認知度向上や販路拡大にも貢献。

基本情報

- 所在地：長野県松川町
- 団体名：株式会社ウィズファーム
- 選定表彰：ノウフクアワード2020審査員特別賞「未来を耕すの部」、OMOTENASHI Selection(2021年度)、OMOTENASHI Selection(2022年度)、ノウフク・アワード2023グランプリ
- 主力商品：果樹（りんご、ぶどう、桃）、にんにく、リンゴ加工品 etc.
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



ノウフクリンゴ



りんごジュース

取組の概要

- 障害者就労施設を運営する中で、障害者の工賃向上や新たな就労先として農業法人を設立。地域や高齢農家等から積極的に農地を借り入れ約206aの農地でりんご、にんにく等を生産。
- 各地のイベントやマルシェで自社農産物をPRするほか、大手リゾートホテルやスーパーとの直接取引を実現。
- 就農前に運営に関わっていた就労継続支援A型事業所・B型事業所及び、令和5年に自社で新たに設立した就労継続支援B型事業所の精神障害者、知的障害者及び身体障害者も農作業に従事。
- 工賃向上や販路開拓、農福連携のPRを目的に、令和元年11月に全国初の「ノウフクJAS」の認証を取得。

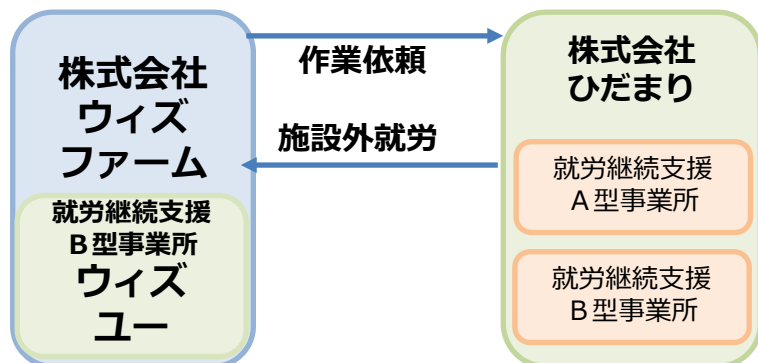


りんご園での作業



農福マルシェ

体制図



取組の成果

- 農作業を細分化して手作業を増やすことで、障害者がストレングスを活かした作業に従事できるため、継続して作業を行えるようになった。また、多くの障害者を受入れることが可能になった。
H29年度 5名 → R4年度 16名
- 長野県の平均工賃月額（16,930円）を上回る工賃（30,074円）を実現。
- 「ノウフクJAS」の取得により、取引先が拡大。

所在地▶長野県下伊那郡松川町上片桐2164-1

連絡先▶TEL:070-4398-1237 E-mail : hara3005@gmail.com

ウェブサイト▶<https://withfarm.amebaownd.com>

【取組のプロセス】

平成23年

障害者の低工賃
荒廃農地の増加
地域活力の低下

きっかけ

就労継続支援A型・B型事業所の運営に携わる中で、工賃の向上やブランドの構築、新たな就労先の確保を目的に地域の特産品であるリンゴの栽培を検討

平成29年

通常の栽培方法は、
障害者が農作業を
行うのに向いてい
ない

株式会社ウィズファームの設立

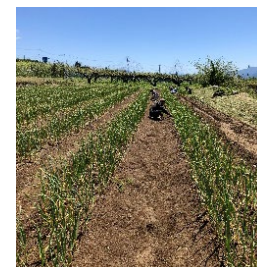
- 農福連携の推進に当たって、長野県や松川町から農業法人の設立を進められ、平成29年2月に、株式会社ウィズファームを設立し、高齢のため離農する農業者から、約40aを借り受けりんご栽培を開始。



りんご園

障害者が作業しやすい環境の構築

- りんごの木は低く仕立て、にんにくは畝間を広くすることで、障害者が農作業しやすい環境を整備。



にんにく畑

令和4年

販路が少ない
農福連携の知名度
が低い

販路拡大の取組（ノウフクJASの取得、インターネットの利用）

- 農作業に従事する障害者のやりがい、工賃及び知名度の向上のため、令和元年11月に、ノウフクJASの認証を取得。
- インターネットを利用し、農福産品の通信販売を行うとともに、YouTubeやメールマガジンで農福連携をPR。

（耕作面積：平成29年40a → 令和5年 206a、就労する障害者の人数：平成29年5名 → 令和5年16名、令和5年度平均工賃月額：30,074円）



ノウフクJAS取得

令和5年

就労継続支援B型事業所・指定特定相談支援事業所の開設

- 農福連携の更なる発展のために、令和5年4月に就労継続支援B型事業所ウィズユーを、令和5年11月に指定特定相談支援事業所ウィズユーを開設。

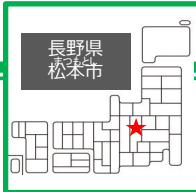
今後の
展望

地域の担い手農業者として規模拡大

- 今後、地域の高齢農業者の離農等の増加することから、担い手としてそれらの農家から農地を借り受け規模を拡大を進め、地域農業の活性化の一翼を担いたい。



YouTubeチャンネル開設



農業者と障害福祉サービス事業所との「マッチング事業」を実施し、作業内容をメニュー化し請負報酬を明らかにすることで農業者と障害福祉サービス事業所双方の不安を軽減。農産物集出荷施設では、作業の安全性に配慮した農福レーンを設置し、果実の箱詰作業を効率的に請負。

基本情報

- 所在地：長野県松本市
- 団体名：松本ハイランド農業協同組合
- 選定表彰：ノウフク・アワード2020 審査員特別賞
- 主力商品：野菜（レタス、キャベツ、白菜、トマト、すいか等）、果樹（りんご、ぶどう、なし、桃等）きのこ、米、大豆、麦、そば、花卉ほか
- 取得認証等：－



トマトジュースやケチャップの材料となる加工用トマト

取組の概要

- 組合員は、依頼したい作業内容をJAに申し込み、JA本所を介して、福祉事業所に仕事を依頼。農作業の請負契約は、JAがサポートを行い組合員と障害福祉サービス事業所が直接締結。
- JAは、作業内容をあらかじめメニュー化することで、福祉事業所の不安を軽減。メニュー化した作業は、時給制でなく、作業内容・作業量に応じた出来高制とし、作業の報酬単価を明確化。作業単価については、毎年、事業者や県の担当者などの関係者を集めた会議を開催し改定。
- 農産物直売所において「農福マルシェ」を開催し、農家だけではなく地域住民や観光客へPRを定期的実施。



加工用トマトの収穫作業

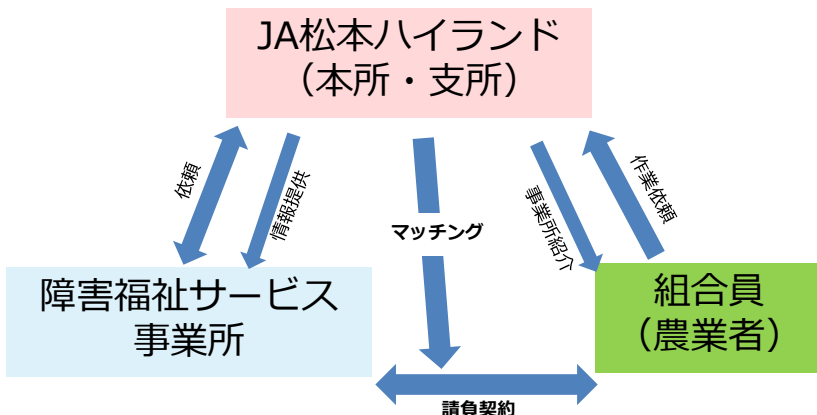


トマト収穫作業の福祉事業者向け事前説明会



農福マルシェ

体制図



取組の成果

- 農家の長時間労働の解消や、スポット的な作業についても労働力の確保が容易になり、経営面積の維持・拡大、荒廃農地の発生防止に貢献。
- 請負作業増加に伴い工賃が向上。
- 農作業行程を分割して、誰でも行いやすい部分を福祉事業所に委託することにより、組合員は、単発的に労働力を必要とする際に労働力を確保できるとともに、自分しかできない作業に集中することで、生産性が向上。
- 農家と障害者地域住民等との交流により地域の支え合い意識が成熟。

所在地 ▶ 〒390-8555 長野県松本市南松本1-2-16

連絡先 ▶ TEL:0263-29-0394 E-mail:nokikaku@mhl.nn-ja.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.ja-m.iijan.or.jp/>

【取組のプロセス】

平成29年

高齢化や人口減少などの影響で農業労働力が不足
荒廃農地の拡大
地域活力の低下

きっかけ

ねぎの畝間等の除草作業を知人や友人に頼んでいたが高齢化等により作業者が減少、福祉事業所の利用者が働く場を求めていることから無料職業紹介事業に基づくモデル事業を開始

JA青年部による農福連携モデル事業がスタート

- 平成29年7月から、農業の労働力不足を解消し、産地の維持・耕作面積の拡大・農業の活性化につなげるため、農協青年部の取組として、地域住民と連携した多角的な労働力の確保のためのモデル事業を開始。
- 18農家と8事業所を結びつけ、延べ323人の障害者が農作業に従事。

平成30年

長野県の農業就労
チャレンジ事業を
受託。

JA松本ハイランドの事業として、支所に窓口を設置

- 平成30年2月、組合員を対象とした説明会を開催し事業をスタート。各支所に農福連携の窓口を設置して、本格的な事業として農家からの相談を受け付け。長野県セルフセンター協議会と連携しながらマッチングを開始。
- マッチング数は、30農家、8事業所で、延べ1,041人。

平成31年

長野県の事業を受託し、農福連携の推進に貢献

- 平成31年4月、長野県の「農業就労チャレンジ事業」を受託し、長野県全体への農福連携推進に貢献。
- マッチング数は、32農家、11事業所で、延べ1,161人と増加。

令和3年

JAの施設就労で拡大した農福連携の取組

- JAが管理運営する果実共選施設の改修に合わせて、障害者が作業を行う専用レーンを新設し、障害者の就労機会の増加を図る
- マッチング数は、34農家、14事業所で、延べ1,483人と増加。

令和4年

JA施設での作業をステップに、事業所が農福連携に取り組みやすい仕組みづくり

- JA施設での就労を通じて、事業所が農業に親しみ、農家での作業に出向ける体制づくりのステップとして、果実共選所での新規事業所受け入れを実施
- マッチング数は、46農家、15事業所で、延べ1,718人に増加。

今後の
展望

アプリを活用して、農福連携に取り組みたい障害福祉サービス事業所からも「こんな作業ができます！」を農家へ発信

- 長野県労働力支援センターとデイワークで開発を進める農福連携アプリを活用し、農家と障害福祉サービス事業所との相互でのマッチング体制の推進に取り組みます！



農家が福祉事業所へ
作業の流れを説明



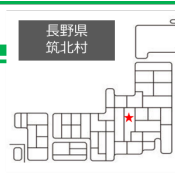
農福連携説明会を開催



「農業就労事業チャレンジ事業」
農業サポーターによる作業支援



作業風景



農業、林業、人、エネルギーを連携させて環境を整え、より効率的かつ持続的な資源の活用を目指すとともに、福祉機関や教育機関との協力体制を築いて、地域全体の「輪」を強化する活動を行う。
地域の魅力と雇用を掘り起こし、誰もが自身の地域に愛着と誇りを持ち、自分の力を発揮できる暮らしやすい社会をつくる。

基本情報

- 所在地：長野県東筑摩郡筑北村
- 団体名：特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021 フレッシュ賞
- 主力商品：薪、古代麦など
- 取得認証等：－



登山道整備



有機栽培のにんにく



古代麦の栽培

取組の概要

- SDGsに配慮し山林を整備。ナラ・クヌギ・桜・アカシアなどの広葉樹を薪として販売するとともに製材、精油、フィールドワーク利用等で里山の100%利活用を目指す。
- 地域の間伐材を燃料とした温泉施設の薪ボイラーの運用を通じ、域内のエネルギー循環を実現（年間6万ℓ灯油削減）、同時に様々な人の雇用をつくりだす。
- 数千年以上前から栽培されるパン小麦の原種にあたる古代麦を生産（英名スペルト、約1.5ha）、その他、桜花木や有機野菜生産を行うとともに地域の農作業、草刈り、公園管理などの請負業務を行う。
- 草刈機、チェーンソーの講習会、倒木の伐採処理、作業道整備、ロープクライミングなどの技術研修を定期的に行う。



草刈作業の代行



森林管理



薪製造

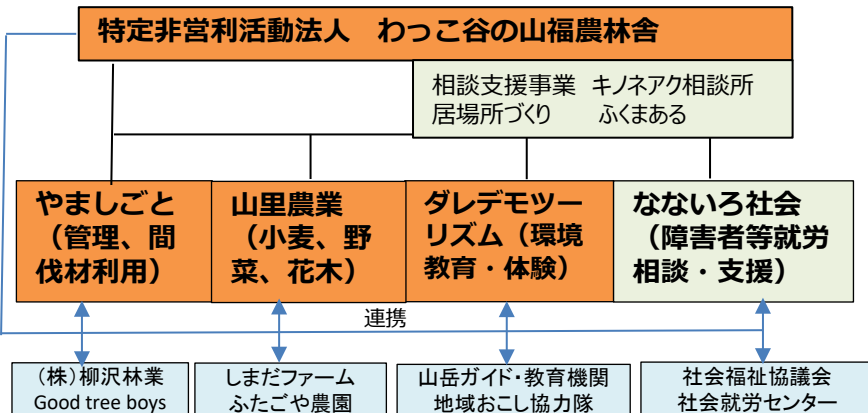


製材



精油

体制図



取組の成果

農地面積：設立当初（平成28年）の0.1haから2.5ha（令和5年）に拡大。
農作物はすべて有機栽培。
伐採件数：設立当初の2件から47件（令和5年）に増加。
ほ場管理：設立当初の14件から191件（令和5年）に急増。農繁期（4月から9月）は農業、農閑期（10月から3月）は林業（松枯れ危険木の伐採）を中心に業務を組立。
障害者就労：設立当初の4人から21人（令和5年）に増加。

所在地 ▶ 〒399-7501 長野県東筑摩郡筑北村西条3846

連絡先 ▶ TEL / FAX : 0263-66-3035 E-mail: info@yamafuku.org

ウェブサイト ▶ <https://www.yamafuku.org>

【取組のプロセス】

平成28年

荒廃農地の増加
林業事業体の減少
高齢化の進行
地域活力の低下
障害者等就労場所の確保

きっかけ

前身である筑北村社会福祉協議会が「農×林×福×教×αプロジェクト」により、地域の困りごとを解決する農林業代行サービスを開始。

推進母体設立のための村民ワークショップを実施

- 荒廃農地、土砂災害、松枯れ被害が拡大。後継者や林業事業者がいないため、自然資源の荒廃が進行。
- 障害者、ひきこもりの状態にある者、生活困窮者、移住者、高齢者の就業場所が不足。
⇒上記の課題解決のため、村民ワークショップ、講演会、啓発活動を行い、法人母体設立の準備を進めるとともに、古代麦生産と林業事業の拡大を計画。

平成29年

令和元年

独立運営となり、業務量が拡大、収入が増加

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎を設立

- 独立運営を開始、農林業の請負業務が急増。
- 教育機関（中学/大学）との連携事業を開始。
- 理事は、社会福祉士、林業会社代表取締役、農園代表、山岳ガイド、大学教授で構成し、会員数83名（令和5年度）。

令和2年

就労継続支援B型事業所のほか、相談支援や居場所づくり事業を開始、より地域の拠点となる活動を展開
令和6年度より就労継続支援A型事業所を開設

就労継続支援B型事業・認定就労訓練事業等を開始、業務を拡大

- 従来の作業に加え、林産物加工として製材事業、精油事業を開始し作業種を拡大。
- 村営温泉施設の木質バイオマスボイラーへの薪供給（年間約200トン）を行うため、間伐材を買取る「やまふく木の駅」を運営。域内のエネルギー循環を実現するとともに障害者、高齢者、移住者などの雇用を創出。

今後の
展望

宝と宝がつながる未来、100年先も輝く世界へ

- 様々な人たちがゆるやかに横方向につながり、多様性を認め合い、地球のサイクルの中で生かされている感覚のもと、誰もが居場所や役割を持ち生活できる地域・社会をつくること。
- 「私もOK、あなたもOK、地域も社会も地球もOK」。人口約4,000人の中山間地の課題解決の取組が、一つのヒントとして全国に認知され、それぞれの地域の宝を活かした地域づくりや環境づくり、人づくりの「わっこ」（※信州弁で「輪」）を各地に拡げていくこと。



伐木造材特別教育



近隣大学とのフィールドワーク



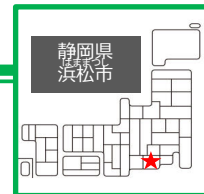
作業道開設



やまふく木の駅



収穫補助



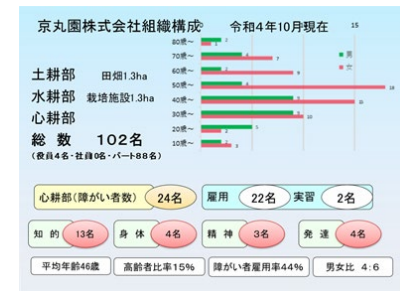
「農を通じた働き場の場づくり」を目指し、農業という産業（ビジネス）の中で、障害者や福祉がプラスとなるユニバーサルデザインによる農業経営を展開。障害者22名を直接雇用するほか、福祉施設や特例子会社とも連携し、作業委託をすることで労働力の確保、障害者や高齢者の雇用の場を創出。

基本情報

- 所在地：静岡県浜松市
- 団体名：京丸園株式会社
- 選定表彰：平成19年 障害者関係功労者内閣総理大臣賞、平成30年 一般財団法人日本 GAP協会GAP普及大賞、令和元年度（第58回）農林水産祭天皇杯、令和3年 ノウフクアワード2021グランプリ、令和4年 障害者雇用優良事業所厚生労働大臣表彰、令和4年 秋の黄綬褒章（鈴木厚志）等
- 主力商品：「姫ねぎ」、「姫みつば」、「姫ちんげん」他
- 取得認証等：認定農業者、JGAP

取組の概要

- 全国初となる量産芽ねぎの水耕栽培やミニちんげん菜の周年量産、みつばの小型化など、付加価値の高い独自のオリジナルブランド商品開発を実施。
- 経営規模拡大のため、障害者を1週間の農業体験で受け入れたことがきっかけとなり、平成8年より障害者自立支援センターと連携し、雇用及び研修受入を開始。
- 社員102名のうち、農作業及び出荷調製作業に携わる障害者22名や85歳を超える高齢者などを雇用しているほか、近隣の福祉事業所や、特例子会社からも障害者を受入など、ユニバーサル農業を展開。
- 障害者が所属する「心耕部」を設立し、個々に合わせた作業メニューが作成できる体制を整備。
- 最低賃金に満たない能力の場合でも働きたい意欲のある障害者を雇用するため、最低賃金の減額の特例許可を得ているが、障害者のスキルアップをサポートし、能力に応じて給与を増加させる仕組みを採用。



組織構成図

体制図

京丸園株式会社（総務・経理事務）、NPOしずおかユニバーサル園芸ネットワーク事務局

水耕部（姫ねぎ・姫みつば・姫ちんげん等の栽培・選別・仕分け・袋詰め）

土耕部（米栽培、姫とまと、ごぼう、白ねぎ、さつまいも）

心耕部（水耕部・土耕部で障害者等の実習・研修）

連携団体

CTCひなり株式会社

多機能型事業所だんだん

障害者就労支援センターふらっと等

取組の成果

- 作業を分解し難易度別に分けたナビゲーションマップの作成や、各個人ごとの育成プログラムを作成することにより、障害者の給料向上に努め、これまで最低賃金除外の対象から外れる障害者を複数名育成。
- 重度の障害者でも作業できる定植パネルや、数量カウンター付トレイ洗浄機、手押しの虫捕獲機など、障害者の仕事を確保しつつ、誰が行っても同じ精度の作業結果が得られる半自動の機械を複数開発。
- ナビゲーションマップは、能力向上の指標としても活用され、連携する福祉事業所では訓練メニューとして活用。
- 障害者が働きやすい環境を整備するため、社員等の6名がジョブコーチ、10名が障害者職業生活相談員、5名がJGAP指導員の資格を取得。

所在地 ▶ 〒435-0022 静岡県浜松市南区鶴見町380-1

連絡先 ▶ TEL:053-425-4786 E-mail: info@kyomaru.net

ウェブサイト ▶ <https://kyomaru.net>

【取組のプロセス】

平成8年

きっかけ

経営規模拡大を図るため、求人を出したところ障害者の応募があり、1週間の職場体験で受け入れたところ、職場の雰囲気がよくなり作業効率が向上したことから

農を通した働き場の場づくり：農業・福祉・企業連携モデル構築へ

- 障害者を受け入れたことにより、職場コミュニケーション、行程管理の考え方が生まれ雰囲気明るくなり、働きやすい職場に変化。
- 職場に精神保健福祉士・第2号職場適応援助者を配置し、指導・スキルアップ。

様々な認定を取得

- 平成27年に厚生労働省次世代育成支援認定「くるみん」取得。
- 平成28年に農業の未来をつくる女性活用経営体100選に認定。

令和元年度農林水産祭で「多角化部門」天皇杯受賞

- 多様な人たちが活躍できる「ユニバーサル農業」を推進しており、従業員のうち約25%が障害者であり、10代から80代まで幅広い年代が活躍。
- 全国初となる量産芽ねぎの水耕栽培やミニちんげん菜の周年量産、みつばの小型化など、付加価値の高い独自のオリジナルブランド商品開発を行い、収益性を確保。

数々の表彰を受ける

- 令和3年にノウフク・アワード2021 グランプリを受賞。
- 令和4年に障害者雇用優良事業所厚生労働大臣表彰及び、代表個人として秋の黄綬褒章を受章。

「笑顔創造」ユニバーサルデザインによる農業経営

- 農業と福祉を融合したユニバーサル農業を核とした環境創造産業を創出。
- 多様な人たちの活躍の場面を農業で広めていくために研究・普及活動を行い農業・福祉・企業の連携ビジネスモデルを構築。



ユニバーサルデザインの機械開発による作業の標準化

作業	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6
1 種別・草取り	汚れ・草取り 一人作業	一定作業量可	虫トラップ可			
2 トレーコンテナ洗い	汚れ・草取り 一人作業	洗浄機使用可	質・量			
3 段ボール組み立て		作業手順	正確・量			
4 ちんげん菜収穫		立作業	正確・量	苗の品質区分		
5 ちんげん菜収穫			効率的	正確・量	品質変化対応	目標収穫量
6 ちんげん菜収穫			正確・量	品質変化対応	品質変化対応	目標収穫量

ナビゲーションマップ



水耕部集合写真



姫ねぎ

平成25年

平成31年

令和4年

今後の展望

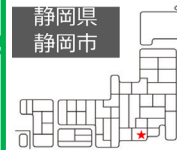
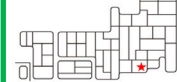
農家の減少
地域活力の低下

平成16年個人経営から法人経営へ移行

平成17年浜松市ユニバーサル園芸研究会が設置（事務局：浜松市）

平成18年NPOしずおかユニバーサル園芸ネットワークが設立（事務局：京丸園）

令和3年障害とは何か、ともに生きる社会とは何かを子どもといっしょに考える絵本「めねぎのうえんのか・か・カーン」を発行

静岡県
静岡市

独自の出荷基準と糖度基準を設けた高糖度トマト『アメーラトマト』として商品化。ブランド化により安定生産を実現し、直営農場で障害者3名を直接雇用するほか、福祉事業所と連携し農作業の委託を実施。

基本情報

- 所在地：静岡県静岡市
- 団体名：株式会社サンファーマーズ
- 選定表彰：日本農業賞特別賞（2012年）
イノベーションアワード金賞（2022年）
ノウフク・アワード2022優秀賞
- 主力商品：アメーラトマト
（高糖度トマト）の生産販売
- 取得認証等：しずおか農林水産物認証



苗の定植作業

取組の概要

- 社内に福祉の農業部を立ち上げ、直営福祉農場を新設。障害者の直接雇用と福祉事業所への作業委託により農福連携によるアメーラトマトの生産を行う。
- 直営福祉農場では、トマト栽培で発生した残渣をたい肥化し、幼稚園と連携した食育活動の実施や、特別支援学校からの職場実習の受け入れを行う。
- アメーラトマトの生産農場と福祉サービス事業所との中間サポートを行うとともに、福祉事業所10法人に対して、作業の一部を委託し、知的障害、精神障害、身体障害（車いす）が農作業に取り組む。

福祉事業所の施設外就労
によるポット回収

主力商品「アメーラトマト」

【直接雇用障害者】
作業風景【幼稚園連携】
収穫体験

体制図

株式会社サンファーマーズ

サンファーマーズ 直営福祉農場（静岡県藤枝市）
（障害者雇用3名） アメーラ選果場（障害者雇用1名）

福祉サービス事業所との業務連携2社
幼稚園との連携（食育活動）

アメーラトマト生産農場（静岡県11箇所、長野県3箇所）
（障害者雇用1名）

福祉サービス事業所との業務連携8社

取組の成果

- 平成28年から障害者雇用を始め、知的障害者4名を雇用。一般の従業員と同じ賃金で雇用し、社会保険にも加入。
- 特別支援学校や福祉サービス事業所から、これまでに21回の実習を受け入れ、実習から雇用につなげた。
- 車いすの方でも活躍する場を創出。
- 福祉事業所10法人に対して、農場の作業の一部を委託しており、令和6年度には100名の利用者が農作業を実施。

所在地 ▶ 〒422-8072 静岡県静岡市駿河区小黒2丁目5-10

連絡先 ▶ TEL:054-282-2756（担当：090-6345-2540）E-mail:yamazaki@amela.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.amela.jp>

【取組のプロセス】

福祉農場を新設し、障害者雇用、福祉サービス事業所との連携の基盤を作る。

平成26年

きっかけ

福祉関係者からのアドバイスで、トマト栽培は周年作業で年間に同じ作業を繰り返し行うことから障害者が活躍できる環境があると知った

平成29年

0.6haの直営福祉農場新設（温室ハウス）

障害の特性と農作業のマッチング

- 選果作業では、障害の特性から不良品の発見に長けた方がいるなど、障害者雇用がアメリカトマトブランドの維持に大きく貢献している。
- 福祉農業部を立ち上げ、福祉の知識のあるものが農場の管理を行っており、ジョブコーチの役割を兼ねている。
- 雇用している障害者が着実にステップアップできるように、指導計画書を作成し指導している。

幼稚園との連携開始

令和元年

社内に福祉農業部の立ち上げ

地域との連携

- 障害者雇用をきっかけに藤枝市役所で販売会を行い、障害者の活躍の場が拡大してきた。
- 特別支援学校の実習の受け入れや幼稚園との連携では、雇用している障害者もイベントの企画立案から実行まで関わっており、地域との連携が進んでいる。
- 幼稚園との食育活動においては、幼稚園の保護者参観のイベントとしても食育活動を行うことで、地域との連携の強化を図っている。

和元年に障害者雇用が3名に

令和3年

連携する福祉事業所が10団体に

直接雇用と福祉事業所との連携

- 直営福祉農場のスタッフ8名のうち、3名を障害者雇用している。当初は作業が限定的であったが、現在はすべての栽培にかかる作業を行えるようになり、大きな戦力となっている。
- 令和5年時点で福祉事業所10か所と連携している。福祉事業所により、利用者の障害の程度は様々だが、それぞれが特色を生かしながら作業に携わっている。

今後の展望

障害者が従業員の一員として成長し、定着し農場運営の戦力へ

- 連携している福祉事業所の利用者から自社雇用につながるなど、福祉事業は重要なパートナーとなっている。今後も福祉事業所と連携しながら雇用した障害者が定着できる支援体制となっていくよう、福祉事業所との連携を強化し、障害者とともに企業としての成長を目指す。



作業風景



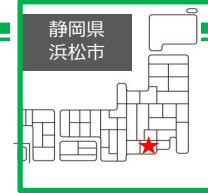
地域での販売会



特別支援学校の実習の様子



【幼稚園連携】
保護者参観会



家族経営の農家が農福連携の取組を行うことで、栽培面積の拡大、労働力不足の改善、収益の向上などを実現し、農業経営が安定化。

基本情報

- 所在地：静岡県浜松市
- 団体名：ひらまつファーム
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023
フレッシュ賞
- 主力商品：ミニトマト、レタス、とうもろこし等
- 取得認証等：認定農業者



ひらまつファームとスマイルベリーのメンバー

取組の概要

- 地域の福祉事業所、NPO法人スマイルベリー、多機能型事業所ひだまりのみちへ野菜の栽培から収穫に至るまでの農作業を委託。
- 新たな治具の開発、各作業ごとのマニュアル作成など、環境を少し整えることで作業効率が飛躍的に改善。
- 農場での作業を障害者の個別支援計画に明確に位置付けることで、障害者一人ひとりの成長につながるよう支援。
- 農園を近隣の幼稚園や福祉事業所の利用者にも開放し、収穫体験を行うほか、NPO法人スマイルベリーが所有するカフェや加工場へ生産物を提供するなど、多方面での連携を実施。



定植作業の治具

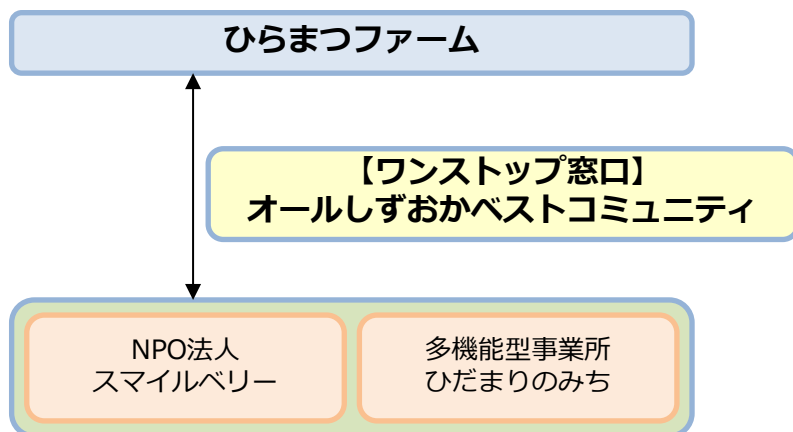


定植機での作業風景



ミニトマトの脇芽取り作業

体制図



取組の成果

- 農福連携に取り組むことで収益向上・栽培面積拡大につながると同時に時間的な余裕も生まれた。
耕作面積：令和3年 1.5ha → 令和4年 1.8ha
売上高：令和3年 1,300万円 → 令和4年 1,560万円
- 受入障害者数は2年間で13名となっており、今後も受入人数を増加させる予定。
- 治具などを導入することにより、1名の定植時間が220本/時間から、280本/時間となるなど、作業効率が大幅に改善。

所在地 ▶ 静岡県浜松市北区新原2040-3

連絡先 ▶ TEL:053-582-7272 E-mail:hf-10ma10@outlook.com

ウェブサイト ▶ <https://fresh-yasai.com/>

【取組のプロセス】

令和3年

きっかけ

新型コロナウイルスや資材費の高騰、局地的豪雨の影響など、農業経営に行き詰まり、県西部農林事務所に相談したところ、農福連携の提案を受けたことから障害者の受け入れを開始

農福連携の取組

- 家族経営で行き詰まっていたが、農福連携に取り組むことで、農業経営の改善に成功。
- 栽培面積がミニトマト1.5倍、とうもろこし1.3倍、レタス1.5倍に拡大。
- 栽培面積が増加したことで、委託先の福祉事業所も増加。



ミニトマトの脇芽取り

地域との連携

- 地元の教育機関とも連携し、今後農業を担っていく学生に農福連携の現状、課題を知ってもらう機会を創出。
- 今までは廃棄していたミニトマトを、連携先のNPO法人スマイルベリーが引き取りカフェで提供するキッシュのトマトソースに活用。



廃棄トマトを利用したキッシュ

令和5年

事例発表

- 令和5年2月に静岡県が主催した「農福連携シンポジウム」において、「0からの農福連携」と題して農福連携の取組を発表。



シンポジウムでの発表

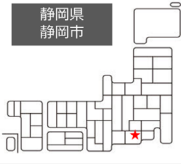
今後の
展望

農福連携の広がり

- 自身の成功により、地域で新たに農福連携を開始した事例があり、農福連携コーディネーターが順番待ちとなるほど地域で農福連携への関心が高まっている。自身の農業経営を見直すきっかけとなった農福連携が、地域にもっと広まり、農業経営に行き詰っている農業者の助けとなる存在を目指す。



レタスの収穫体験



障害を持つ利用者が通年でしいたけの菌床栽培や茶、野菜の栽培を実施するほか、施設外就労で茶農家、近隣農家の農業支援に従事。

基本情報

- 所在地：静岡県静岡市葵区
- 団体名：株式会社よしもと
- 選定表彰：－
- 主力商品：製茶、しいたけ栽培、野菜栽培、周辺農家への施設外就労
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



静岡茶発祥の地 足久保茶園の管理

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所を運営し、知的障害者や精神障害者を中心に15名が主に菌床椎茸栽培に従事。
- 地域の高齢農家等から、茶園290a及び畑30aを借り受け、自ら環境に配慮した農産物の生産を行っているほか、茶農家等から農作業の請負を実施。
- 株式会社よしもとが運営するA型事業所、足久保ティーワークス茶農協と連携し、茶農協が運営する茶園の1割程度を障害者が管理。
- 障害者の地域との交流を促進するため、しいたけの作業所を利用し、生産したしいたけや農産物の直売を実施。



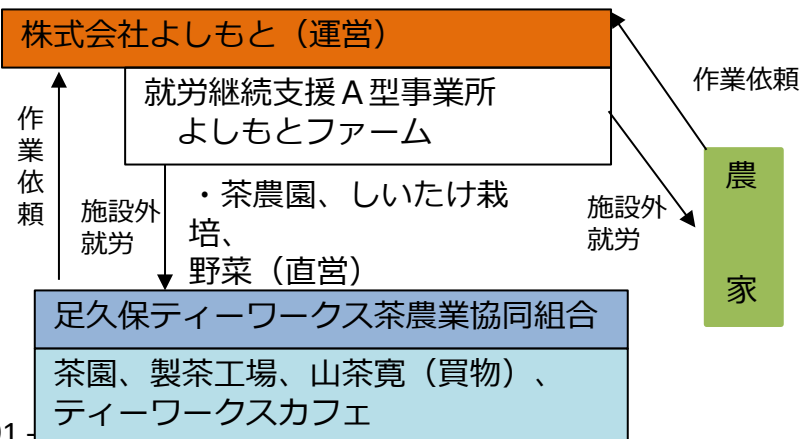
高齢農家への農作業支援



ノウフクJAS認証のしいたけ



体制図



取組の成果

- 積極的に施設外就労へ取り組むとともに、自らも農地を借り受け規模を拡大し、令和元年には認定農業となる。
- 請負先の農家においても、環境へ配慮した農業への意識が高まり、エコファーマーなどの認定が増加。
- 農作業へ従事することにより、障害者の生活リズムや食生活が改善。また、地域での信頼を得ることで、障害者自身が地域で暮らしていけるとの自信を得ている。

所在地 ▶ 〒421-2124 静岡県静岡市葵区足久保口組71-1

連絡先 ▶ TEL:054-296-9510 E-mail:yoshimoto@wind.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <https://yoshimotofarmagata.wixsite.com/kinoko>

【取組のプロセス】

菌床しいたけの通年栽培をきっかけに、福祉事業へ本格参入

平成25年

きっかけ

農閑期の作業として行っていた椎茸栽培を通年で栽培する際、労働力の確保が困難であった

平成26年

就労継続支援A型事業所を開設

- 平成26年に、就労継続支援A型事業所「よしもとファーム」を開設。障害者が菌床しいたけ栽培に従事。

平成26年

施設外就労の開始（茶栽培）

- 平成26年から、高齢化により人材不足に悩んでいた地域の茶農家から作業を請け負い、施設外就労を開始。

請負面積：50a 障害者：13名

平成27年

農産物の生産についても、地域の農家から請負の要望が多くなった。

野菜農家からの作業依頼の受け入れ開始

- 平成27年から、茶以外の農産物についても、施設外就労での作業請負を開始。

請負面積：150a 障害者：13名

令和2年

ノウフクJAS認証取得

- 令和2年、しいたけ、茶（生葉）、だいこん、にんじん、ごぼう、ブロッコリーでノウフクJAS認証を取得。

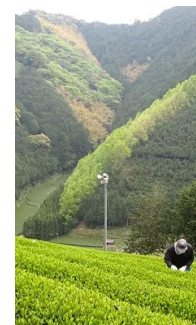
今後の展望

農福連携の広がりを推進

- 静岡茶発祥の地（足久保茶）を後世に繋げるべく地域の茶工場とともに茶生産に取組、製品としてのお茶ノウフクJAS認証の取得を目指す。
- 農業従事者の高齢化や担い手の減少、障害者の働き場所の確保といった課題解決に繋がるほか、他の農業者が農福連携に取組やすい環境を醸成。



菌床しいたけ



茶畑での作業



畑での作業

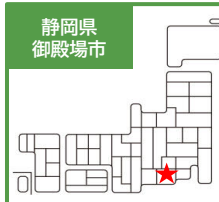


出荷作業

障害者就労施設が、水耕栽培に取り組み、毎日安定出荷することで高工賃を実現。地域のスーパーとの取引拡大により、第2農場を建設するなど規模拡大を実現。

福祉事業所

静岡県
御殿場市



きっかけ

H9年

開所当初から農業に取り組んできたが、H24年から天候に左右されず、障害者に毎日同じ作業環境を用意できる水耕栽培を導入。

人を耕す

- 58名の利用者のほとんどが農業に従事し、H24年から水耕栽培を導入。
- 水耕栽培により安定出荷を実現し、毎日600～1,000株を地域のスーパーに出荷。
- 利用者数は倍増し、すべての作業ができる利用者(エキスパート)を育成して職員不在時の作業を確保。3名は一般企業に就労。

地域を耕す

- 水耕栽培ではリーフレタスを中心に、R5年には第2農場を設立し、サンチュやルッコラなどを通年で栽培。地域イベントや食育活動にも参加。
- 担い手が高齢化した茶畑の管理を請け負い、障害者が作業を行い、茶葉を販売して工賃向上を目指す。新たに粉茶やクッキーも開発。
- 農福連携を開始以来、静岡県内で福祉モデルとして多くの講演を行う。

未来を耕す

- 商品の品質向上に向けて、消費者目線を重視し、商品規格やパッケージングについての研修を実施。
- 御殿場市内の学校給食センターにリーフレタスを納品。

基本情報

設立:H18年/農福連携取組開始:H9年

取得認証等:しずおか農林水産物認証

取組

成果

主力商品

(農作物)リーフレタス、サンチュ、ルッコラ 等
(加工品)粉茶、クッキー、食パン、濃厚茶みつ、
レタスふりかけ

概要

社会福祉法人 ステップ・ワン

ゆめ農

連携

NPO法人
オールしずおかベストコミュニティ

販売

イオングループ マックスバリュ東海

体制図

TEL:0550-82-0980 Mail:Step.one813gogo@gmail.com
<https://gotemba-stepone.jimdofree.com/>

平均工賃月額

8,000円(H9)
→60,000円(R5)

障害者数

15人(H9)
→40人(R5)

農業売上

6,000千円(H9)
→19,438千円(R5)

農地面積

0.03ha(H9)
→2.5ha(R5)

- 地域のお祭りや農福マルシェ、市役所マルシェ等に積極的に参加。近隣の幼稚園とは夏野菜の苗を「お買い物ごっこ」形式で販売し、食育を促進。
- 毎日同じ作業ができる環境(水耕栽培)を整備することで、生産性が向上。
- 茶葉を粉末にした6次化商品などを開発・販売。